

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	2022年6月29日
【事業年度】	第124期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）
【会社名】	チタン工業株式会社
【英訳名】	Titan Kogyo, Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長執行役員 井上 保雄
【本店の所在の場所】	山口県宇部市大字小串1978番地の25
【電話番号】	(0836) 31 - 4155 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 常務執行役員 西田 敦
【最寄りの連絡場所】	山口県宇部市大字小串1978番地の25
【電話番号】	(0836) 31 - 4155 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 常務執行役員 西田 敦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第120期 2018年3月	第121期 2019年3月	第122期 2020年3月	第123期 2021年3月	第124期 2022年3月
売上高 (百万円)	-	-	8,761	6,284	8,149
経常損益(は損失) (百万円)	-	-	512	150	287
親会社株主に帰属する 当期純損益(は損失) (百万円)	-	-	401	178	265
包括利益 (百万円)	-	-	361	33	394
純資産額 (百万円)	-	-	6,559	6,442	6,737
総資産額 (百万円)	-	-	12,733	15,704	16,372
1株当たり純資産額 (円)	-	-	2,059.62	2,012.64	2,132.33
1株当たり当期純損益 (は損失) (円)	-	-	133.34	59.31	88.14
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	-	-	48.6	38.6	38.7
自己資本利益率 (%)	-	-	6.5	2.9	4.3
株価収益率 (倍)	-	-	12	-	21
営業活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	-	-	1,872	149	687
投資活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	-	-	2,005	770	3,453
財務活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	-	-	72	597	2,740
現金及び現金同等物の期末残 高 (百万円)	-	-	898	576	551
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	- (-)	- (-)	336 (34)	355 (28)	335 (24)

(注)1 第122期連結会計年度より連結財務諸表を作成しているため、それ以前については記載しておりません。

2 第122期、第124期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3 第123期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

4 第122期の自己資本利益率については、連結初年度のため、期末自己資本に基づき計算しております。

5 第123期の株価収益率については、親会社株主に帰属する当期純損失を計上しているため、記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第120期	第121期	第122期	第123期	第124期
決算年月	2018年3月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月
売上高 (百万円)	6,540	8,213	8,484	5,695	7,611
経常損益 ( は損失) (百万円)	66	541	450	176	245
当期純損益 ( は損失) (百万円)	151	560	476	187	236
持分法を適用した場合の投資利益 (百万円)	7	2	-	-	-
資本金 (百万円)	3,443	3,443	3,443	3,443	3,443
発行済株式総数 (千株)	3,027	3,027	3,027	3,027	3,027
純資産額 (百万円)	5,431	5,886	6,205	6,003	6,178
総資産額 (百万円)	10,698	13,378	11,794	14,933	15,666
1株当たり純資産額 (円)	1,805.60	1,956.99	2,063.50	1,993.62	2,079.81
1株当たり配当額 (円)	20.00	30.00	30.00	10.00	18.00
(内1株当たり中間配当額)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)
1株当たり当期純損益 ( は損失) (円)	50.51	186.37	158.45	62.34	78.43
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	50.8	44.0	52.6	40.2	39.4
自己資本利益率 (%)	2.7	9.9	7.9	3.1	3.9
株価収益率 (倍)	50	12	10	-	23
配当性向 (%)	39.6	16.1	18.9	-	23.0
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	809	456	-	-	-
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	305	456	-	-	-
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	486	906	-	-	-
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	948	942	-	-	-
従業員数 (人)	264	284	295	310	296
(外、平均臨時雇用者数)	(28)	(27)	(24)	(20)	(15)
株主総利回り (%)	130.7	121.1	87.3	108.0	100.8
(比較指標：配当込みTOPIX) (%)	(115.9)	(110.0)	(99.6)	(141.5)	(144.3)
最高株価 (円)	3,815	3,175	3,245	2,650	2,178
	(453)				
最低株価 (円)	2,366	1,905	1,355	1,530	1,601
	(186)				

(注)1 第120期、第121期、第122期、第124期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載していません。

2 第123期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、記載していません。

3 第123期の株価収益率及び配当性向については、当期純損失を計上しているため、記載していません。

4 第122期より連結財務諸表を作成しているため、持分法を適用した場合の投資利益、営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー及び現金及び現金同等物の期末残高は記載していません。

5 当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。第120期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

6 最高株価及び最低株価は東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。

第120期の株価については株式併合後の最高株価及び最低株価を記載しており、( )内に株式併合前の最高株価及び最低株価を記載しております。

## 2【沿革】

1936年6月	酸化チタンの国産化を目的に創立
1938年6月	宇部工場完成
1938年8月	日本硫酸株式会社を合併
1945年7月	被爆により操業中止
1946年7月	本社を東京都から山口県宇部市へ移転、東京事務所開設
1949年4月	宇部工場の復旧工事完成、同10月稼働
1962年10月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場
1963年4月	大阪事務所開設
1965年4月	酸化鉄工場完成
1969年6月	磁性酸化鉄の販売を開始
1987年9月	東京証券取引所市場第一部指定
1993年7月	宇部開発センター新設
2004年5月	中国山東省に山東東佳集团有限公司(中国)及び三井物産株式会社と合併で山東三盛 <sup>926</sup> 工業有限公司(現 関連会社)を設立
2005年3月	大阪営業所(旧 大阪事務所)を東京事務所に統合
2006年10月	T K サービス株式会社(現 連結子会社)を設立
2010年10月	宇部西工場新設
2019年7月	株式会社T B M(現 連結子会社)を設立
2019年9月	会社分割によりチタン酸リチウム事業を株式会社T B Mに承継
2019年10月	株式会社東芝とチタン酸リチウム合併事業を開始
2022年4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京証券取引所の市場第一部からプライム市場に移行

### 3【事業の内容】

当社グループは、当社及び子会社2社並びに関連会社1社により構成されております。

当社は、酸化チタン及び酸化鉄並びにこれらに付随する化学工業品の製造及び販売を行っております。

子会社である株式会社TBM（当社51%出資）は、チタン酸リチウムの製造及び販売を行っております。当社は同社に製品を販売しているほか、同社から委託を受け、同社の管理業務等を行っております。

子会社であるTKサービス株式会社（当社100%出資）は、当社から委託を受け、当社の場内物流業務等を行っております。

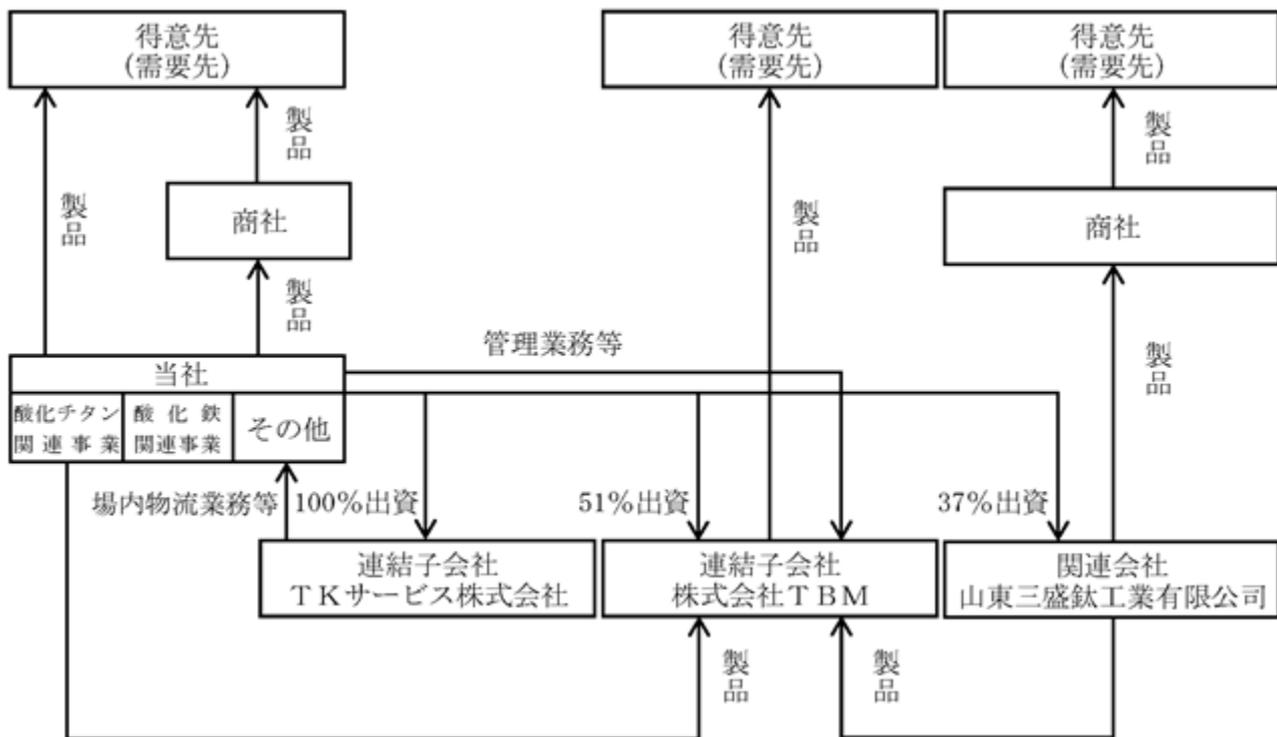
関連会社である山東三盛<sup>22</sup>工業有限公司（当社37%出資）は、中国市場における化合織向け酸化チタンの製造及び販売を行っております。同社は株式会社TBMに製品を販売しております。

当社グループの事業内容及び当社との関係会社の当該事業に係る位置付けは次のとおりであります。

なお、次の2部門は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に掲げるセグメント区分と同一であります。

- (1)酸化チタン関連事業 酸化チタン、超微粒子酸化チタン及びチタン酸リチウム等
- (2)酸化鉄関連事業 酸化鉄等
- (3)その他 副産物等

事業の系統図は、次のとおりであります。



#### 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社TBM	山口県 宇部市	310	チタン酸リチウムの 製造及び販売	51.0	当社から製品を購入 及び資金を借入 当社に管理業務等を 委託 役員の兼務 3名
(連結子会社) TKサービス株式会社	山口県 宇部市	9	工場構内の物流 サービスの提供	100.0	当社の場内物流業務 等を受託
(持分法適用関連会社) 山東三盛工業有限公司	中国 山東省	US\$ 6,000千	酸化チタンの製造 及び販売	37.0	連結子会社に製品を 販売 役員の兼務 1名

(注) 株式会社TBMについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1)売上高	1,311百万円
	(2)経常利益	34百万円
	(3)当期純利益	42百万円
	(4)純資産額	821百万円
	(5)総資産額	1,393百万円

#### 5【従業員の状況】

##### (1) 連結会社の状況

2022年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
酸化チタン関連事業	147 (6)
酸化鉄関連事業	41 (1)
報告セグメント計	188 (7)
その他	18 (6)
全社(共通)	129 (11)
合計	335 (24)

(注)1 従業員数は就業人員であり、嘱託(35人)を含んでおり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。

2 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門・共通部門に所属しているものであります。

##### (2) 提出会社の状況

2022年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
296 (15)	40.3	14.1	5,135

セグメントの名称	従業員数(人)
酸化チタン関連事業	126 (3)
酸化鉄関連事業	41 (1)
報告セグメント合計	167 (4)
その他	- (-)
全社(共通)	129 (11)
合計	296 (15)

(注)1 従業員数は就業人員(当社から連結子会社への出向者を除く。)であり、嘱託(25人)を含んでおり、臨時雇用者数(パートタイマー、連結子会社からの派遣社員を含む。)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。

2 平均年間給与(税込金額)は賞与及び基準外給与を含んでおります。

3 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門・共通部門に所属しているものであります。

##### (3) 労働組合の状況

当社の労働組合はチタン工業労働組合と称し、2022年3月31日現在の労働組合員総数は237人であり、日本化学エネルギー産業労働組合連合会に加盟しております。なお、1951年8月の労働協約締結以来、円満な労使関係を維持しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社は、「顧客本位」「効率経営」「社会貢献」を企業理念に掲げており、当社グループもこれにそった経営を進めております。

すなわち、常に顧客を第一に考えて事業活動を進めることにより、顧客から高い信頼を得られるよう努力いたしております。また、顧客に最高品質の製品を提供するよう努める一方で、適正利潤を確保するために原価低減をはかり、品質と利潤のバランスを取りながら効率よく事業活動を進めるよう心がけております。そして、これらの事業活動を通じて社会に貢献することにより、当社グループが社会から必要とされる存在となるよう努力いたしております。

以上の企業理念と現状を踏まえ、「変革」「信頼」「迅速」を行動指針として事業活動を進めております。

#### (2) 目標とする経営指標

当社グループでは、第6次中期経営計画(2021~2023年度)を策定し、短期的には、売上の回復が遅れても利益が出るコスト構造に改革すること、また、3年目の2023年度、有事に左右されない強い企業体質を構築することを目指しております。

同計画の数値目標は、2023年度の売上高営業利益率(ROS)9%と自己資本当期純利益率(ROE)8%であり、これらを目標とする経営指標として経営活動に取り組んでおります。

また、2022年4月の東京証券取引所の市場再編で当社はプライム市場に移行しましたが、上場維持基準のうち、流通株式時価総額が基準を充たしていない状況です。そこで、基準適合のため第6次中期経営計画の延長線上の成長像を示すこととし、その中で2025年度の営業利益1,300百万円を特に重視する目標として掲げております。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略及び対処すべき課題

##### 第6次中期経営計画(2021~2023年度)

当社グループでは、コロナ禍で生じた喫緊の課題に速やかに対処するとともに、10年先のありたい姿からバックキャストイングしてこの3カ年で成し遂げたいことを盛り込んで、第6次中期経営計画を策定いたしました。

##### ・基本方針

「収益性の向上と成長戦略の実現」「リスク耐性の強化」「環境・社会への貢献」を基本方針とし、コスト削減で収益性の向上に努めるとともに成長戦略の実現と経営資源の効率化を進め、リスク耐性を高めて経営基盤を強化し、あわせて企業と社会がともに繁栄する持続可能な未来の実現を追求することで、打撃を受けた収益の早期回復と企業価値の向上を目指します。

##### ・事業戦略

事業戦略では、超微粒子酸化チタンの生産増強によって海外化粧品市場での拡大や新用途への展開などで売上を増やし、採算性の改善を行って、安定化とリスク耐性を強化します。

コスト削減では、計画1年目の2021年度は支出を抑えて徹底した固定費削減を進め、3年目の2023年度、1人当たりの生産性を現状の1.5倍以上に向上させます。

また、活気あふれる会社となるよう働きがいと成長の両立を重視します。

##### ・ESG経営

10年先を見据えてSDGsを意識してESG経営を推進し、持続可能な社会の実現に貢献します。省エネルギー、廃棄物削減、海洋汚染の防止など環境負荷の低減を進めます。

ガバナンスでは、取締役会の機能発揮、企業の中核人材の多様性の確保、サステナビリティを巡る課題への取り組みをはじめとする諸課題に対処し、東京証券取引所新市場区分のプライム市場上場会社に求められる一段高いガバナンスを目指して取り組みを進めます。

##### プライム市場の上場維持基準適合のための計画(2025年度)

当社は、2022年4月の東京証券取引所の市場再編でプライム市場に移行しました。しかしながら、プライム市場上場維持基準の中で流通株式時価総額が基準を充たしておりません。

なお、現在進行中の第6次中期経営計画はプライム市場への移行を念頭に策定したもので、1年目を終えた時点で、実績は計画を上回る勢いで進んでおります。

これに加え、第6次中期経営計画の延長線上にある企業価値向上の成長像を示すこと、また、株主還元の拡充を示し株主にとっての魅力度を高め、情報発信力を強化して当社を広く知ってもらうことに取り組み、プライム市場上場維持基準にかなう企業価値及び株主価値の向上の実現を目指します。

## 数値目標(連結)

	第6次中期経営計画期間				5年目 2025年度 計画
	2021年度		2022年度 計画	2023年度 計画	
	計画	実績			
売上高 (百万円)	7,820	8,149	9,000	9,600	10,300
営業利益 (百万円)	280	373	500	860	1,300
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	110	265	280	530	850
R O S (%)	4	4.6	6	9	12
R O E (%)	2	4.3	5	8	10
年間配当 (円/株)	10	18	20	30	配当性向 20%を目安

業績予想など将来に関する記述は、当連結会計年度末現在で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

## 2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下2事業等のリスクにおいて「経営成績等」という。）の状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。なお、これらのリスク発生の回避及び発生した場合の対応には最大限努力する所存であります。

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

## (1) 事業展開に関するリスク

## 経営計画に関するリスクについて

当社グループは、経営計画の推進や、様々な経営戦略を実施するなど、新規事業の育成に努めております。しかしながら、新規製品の事業化が計画通りに進まなかった場合、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

## 設備等の操業度に関するリスクについて

当社グループは、成長戦略実現のために、生産設備の増強投資を実施しております。当社の強みを生かした戦略の実行により早期のフル操業を目指しておりますが、計画通りに進まなかった場合、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

## 研究開発に関するリスクについて

当社グループは、これまで培った技術と情報の蓄積を活かし、新技術・新製品等の研究開発に努めております。しかしながら、これらの開発や市場への展開が進まなかった場合、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

## 売上債権に関するリスクについて

当社グループは、主として特約店を通じた販売活動を進め、売上債権の保全と与信体制の強化を推進しておりますが、販売先の経営悪化や破綻等により債権回収に支障をきたすこともあり、この場合、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

## 製品在庫に関するリスクについて

当社グループの製品在庫につきましては、効率的な生産・販売を実現するための標準在庫量の管理と適切な原価計算及び在庫評価ルールに基づいて対応しておりますが、今後、事業環境が急転するなどした場合、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

## 原燃料調達に関するリスクについて

当社グループが購入する原燃料は複数の外部供給者から購入し、適正な在庫の確保を前提とした生産体制をとっております。しかしながら、国際情勢等がもたらす外部要因により、原燃料の調達が遅延または困難となり、場合によっては、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

## 原燃料価格の変動に関するリスクについて

当社グループが購入する原燃料において市況の影響を受けるものが一部あります。原価低減活動等により影響額を吸収するなど適宜対応を行っておりますが、場合によっては、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

#### 中国での合併事業に関するリスクについて

当社グループは、中国における化合織向け酸化チタンの事業につきまして、中国国内に設立した日中合併会社による現地での生産・販売を行っております。同社との連携を密にし、現地の動向等については随時掌握し、適切に対応していく方針であります。現地の法的規制や経済環境等で予測不能な事態が生じた場合、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

#### 株式相場の変動に関するリスクについて

当社グループが保有する有価証券には上場株式が含まれております。当該株式の時価を日々確認しておりますが、株式相場の動向により、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

#### 為替の変動に関するリスクについて

当社グループは、製品の一部を輸出し、購入する原燃料の一部について輸入を行っております。また、海外関連会社との取引もあります。当該為替レートを日々確認しておりますが、これらは為替変動の影響を少なからず受けるものであり、急激な為替の変動が生じた場合、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

#### 金利の変動に関するリスクについて

当社グループは、設備投資のための資金等の大部分を銀行からの借入れにより調達しております。市中金利の情勢について常に注視しておりますが、金利の大幅な変動がある場合、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

#### 人材確保と人材育成に関するリスク

当社グループは、計画的な新卒採用及び経験者の中途採用を通じて人材の確保を行うとともに、人材の育成を推進しております。しかしながら、ベテラン従業員の退職等により、人材の確保及び育成、技術伝承が推進できない場合、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

### (2) 財政状態に関するリスクについて

#### 固定資産の減損に関するリスクについて

当社グループが保有する固定資産につきましては、「固定資産の減損に係る会計基準」を適用しております。今後、事業環境が急転するなどした場合、収益性の低下、時価の下落、設備等の遊休化などに伴って減損損失を計上することもあり、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

#### 財務制限条項の抵触に関するリスク

当社グループは、複数の金融機関との間でシンジケートローン契約を締結しており、当該契約には一定の財務制限条項が付されております。これらの条項に抵触した場合、借入金の期限前返済義務を負うことがあり、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

### (3) 法律・規制に関するリスクについて

#### 品質保証及び製造物責任に関するリスクについて

当社グループは、製品の品質について万全の体制を整えて取り組んでおりますが、予期し得ない事情により製造物責任が発生する可能性が皆無ではなく、この場合、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

#### 訴訟に関するリスクについて

当社グループは、法令遵守に努めておりますが、多岐にわたる事業活動においては常に訴訟の対象となるリスクが存在しているものと考えております。提起された訴訟の内容、当社の対応方針、訴訟の結果によっては当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

#### 環境規制に関するリスクについて

当社グループは、製造の過程で大量の資源とエネルギーを消費することから、環境に少なからぬ影響を及ぼしております。環境への負荷の低減などに鋭意取り組んでおりますが、環境関連規制の強化等によっては、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

#### 知的財産に関するリスクについて

当社グループは、特許等の知的財産について十分な調査及び管理を行っております。しかしながら、第三者からの侵害を防止できなかった場合、または、当社グループの知的財産である製品及び技術が他社の知的財産権を侵害しているとされた場合、これらの知的財産権の侵害により、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

### (4) 事故災害・自然災害に関するリスクについて

#### 災害等に関するリスクについて

当社グループは、火災爆発等の事故災害や気候変動等による風水害、地震等の自然災害による損害を食い止めるため、設備の点検、安全・消火設備の充実、各種保安活動、訓練等を行っております。しかしながら、これらの事故災害を完全に防止する保証はなく、被災した場合、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

#### 新型コロナウイルス感染拡大のリスクについて

a . 需要減少のリスク

新型コロナウイルス感染症の影響の長期化により、当社グループの収益の減少やこれに伴う操業度の低下など事業活動に支障が生じる場合があります。そのような状況下においても用途開発、生産性の向上、コストダウン等の対策を継続し、業績への影響を最小限に抑えるよう努めてまいりますが、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

b . 従業員の感染リスクと事業継続リスク

社内外への感染被害抑止と従業員の健康と安全の確保に努めておりますが、当社グループの従業員が新型コロナウイルスに感染し、従業員同士の接触等により社内での感染が拡大した場合、工場における生産及び出荷に支障をきたし、一定期間操業を停止するなど、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

(5) その他のリスクについて

東京証券取引所「プライム市場」の上場維持基準に適合しないリスク

当社は、東京証券取引所の市場区分見直しにあたり、流通株式時価総額がプライム市場の上場維持基準を充たしていないことから、同取引所に新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書を提出し、プライム市場に移行いたしました。同計画では、2025年度に営業利益1,300百万円を目標として掲げており、この目標を達成するため、上場維持基準の適合に向けた取組の基本方針である企業価値の向上、株主還元の拡充及び情報発信力の強化に取り組んでまいります。なお、上場維持基準を充たすために上記取組を進めてまいりますが、財政状態及び経営成績並びに市場環境や経済情勢によっては、当該基準を充たすことができず、プライム市場において当社株式の上場を維持することが出来ない可能性があります。

情報の流出に関するリスクについて

当社グループは、保有する事業に関する機密情報や個人情報等の外部流出を防止するため、情報システムのセキュリティ強化を図っております。しかしながら、外部からの不正アクセスやサイバー攻撃等の不測の事態により、これらの情報が漏洩した場合、社会的信用の失墜により、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

その他事業環境等に関する変動リスクについて

当社グループは、上記以外の項目に関しても偶発事象に起因する事業環境等の変動リスクを負っており、その変動によっては、当社グループの経営成績等に影響を与える可能性があります。

### 3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国の経済は、政府による各種政策の効果や海外経済の改善を受けて、持ち直しの動きがみられましたものの、新型コロナウイルス感染症の影響及び原燃料価格の高騰により、依然として厳しい状況で推移いたしました。

このような情勢のもとで、当社グループは、3カ年の第6次中期経営計画（2022年3月期～2024年3月期）に基づき、コスト削減で収益性の向上に努めるとともに成長戦略の実現と経営資源の効率化を進めるなど、新型コロナウイルス感染症の影響で打撃を受けた収益の早期回復と企業価値の向上に取り組んでまいりました。

当連結会計年度の売上高につきましては、一部製品の出荷が好調に推移したことや、新型コロナウイルス感染症の影響により縮小した経済活動の持ち直しの動きのなかで、製品の需要が回復したことなどにより、前連結会計年度を上回る8,149百万円（前連結会計年度比29.7%増）となりました。

損益面につきましては、超微粒子酸化チタン製造設備増設に伴う減価償却費の増加及び主要原燃料価格の高騰などの影響を受けましたものの、売上高の増加に加え、生産数量も増加したことなどにより、営業利益は373百万円（前連結会計年度は営業損失64百万円）、経常利益は287百万円（前連結会計年度は経常損失150百万円）、親会社株主に帰属する当期純利益は265百万円（前連結会計年度は親会社株主に帰属する当期純損失178百万円）となりました。

セグメント別の概況は、次のとおりであります。

（酸化チタン関連事業）

酸化チタン関連事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により縮小した経済活動の持ち直しの動きのなかで、トナー外添剤向け及びUVカット化粧品向け製品の需要が回復したことや、リチウムイオン二次電池向け製品の出荷が好調に推移したことなどにより、出荷数量が増加いたしました。

その結果、当セグメントの売上高は5,464百万円（前連結会計年度比23.6%増）となり、超微粒子酸化チタン製造設備増設に伴う減価償却費の増加及び主要原燃料価格の高騰などの影響を受けましたものの、売上高の増加に加え、生産数量も増加したことなどにより、営業利益は408百万円（前連結会計年度比121.2%増）となりました。

（酸化鉄関連事業）

酸化鉄関連事業につきましては、トナー向け新製品の出荷が好調に推移したことや、新型コロナウイルス感染症の影響により縮小した経済活動の持ち直しの動きのなかで、汎用品向け及び化粧品向け製品の需要が回復したことなどにより、出荷数量が増加いたしました。

その結果、当セグメントの売上高は2,622百万円（前連結会計年度比44.0%増）となり、売上高の増加に加え、生産数量も増加いたしましたものの、主要原燃料価格の高騰などの影響を受けましたので、営業損失は76百万円（前連結会計年度は営業損失266百万円）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、資金という。）の残高は551百万円となり、前連結会計年度末より25百万円減少いたしました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における営業活動によるキャッシュ・フローは687百万円（前連結会計年度は 149百万円）となりました。これは、売上債権の増加（ 612百万円）、棚卸資産の増加（ 719百万円）などの資金減があったものの、税金等調整前当期純利益(283百万円)、減価償却費（853百万円）、仕入債務の増加（567百万円）、その他の営業活動による収入(318百万円)などの資金増によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における投資活動によるキャッシュ・フローは 3,453百万円（前連結会計年度は 770百万円）となりました。これは、有形固定資産の取得による支出（ 3,452百万円）などの資金減によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度における財務活動によるキャッシュ・フローは2,740百万円（前連結会計年度は597百万円）となりました。これは、短期借入金の返済による支出（ 300百万円）、長期借入金の返済による支出（ 452百万円）などの資金減があったものの、長期借入れによる収入(3,600百万円)などの資金増によるものであります。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	対前期比増減(%)
酸化チタン関連事業	6,842	34.6
酸化鉄関連事業	2,623	57.1
その他	7	9.3
合計	9,473	40.2

(注)1 金額は期中平均販売価格によっております。  
2 当社グループは生産に関し外注は行っていません。

b. 受注実績

当社グループは受注生産は行っていません。

c. 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	対前期比増減(%)
酸化チタン関連事業	5,464	23.6
酸化鉄関連事業	2,622	44.0
その他	63	45.5
合計	8,149	29.7

(注)1 セグメント間の取引については、相殺消去しております。  
2 主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
稲畑産業株式会社	1,954	31.1	2,419	29.7
森下産業株式会社	990	15.8	1,473	18.1
株式会社東芝	1,111	17.7	1,311	16.1

## (2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

### 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、経営者により会計基準の範囲内で見積り計算が行われており、資産及び負債、収益並びに費用にその結果が反映されております。これらの見積りについては継続して評価し、必要に応じて見直しを行っておりますが、見積りには不確実性が伴うため、実際の結果と異なることがあります。

なお、重要な会計方針及び見積りの詳細につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 (連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) 4. 会計方針に関する事項」及び「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 (重要な会計上の見積り)」に記載のとおりであります。

### 財政状態の分析

#### (資産)

当連結会計年度末における資産合計は16,372百万円となり、前連結会計年度末に比べ667百万円増加いたしました。これは主にその他流動資産が217百万円、有形固定資産が559百万円それぞれ減少したものの、受取手形及び売掛金が448百万円、電子記録債権が163百万円、商品及び製品が464百万円、仕掛品が172百万円、投資有価証券が104百万円それぞれ増加したことによるものであります。

#### (負債)

当連結会計年度末における負債合計は9,635百万円となり、前連結会計年度末に比べ373百万円増加いたしました。これは主に短期借入金が300百万円、その他流動負債が2,848百万円それぞれ減少したものの、支払手形及び買掛金が230百万円、電子記録債務が135百万円、長期借入金が3,093百万円それぞれ増加したことによるものであります。

#### (純資産)

当連結会計年度末における純資産合計は6,737百万円となり、前連結会計年度末に比べ294百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が234百万円増加したことによるものであります。

### 経営成績の分析

当連結会計年度における売上高は8,149百万円(前連結会計年度比29.7%増)、売上原価は6,675百万円(前連結会計年度比26.0%増)、販売費及び一般管理費は1,101百万円(前連結会計年度比4.6%増)、営業利益は373百万円(前連結会計年度は営業損失64百万円)、経常利益は287百万円(前連結会計年度は経常損失150百万円)、親会社株主に帰属する当期純利益は265百万円(前連結会計年度は親会社株主に帰属する当期純損失178百万円)となりました。

### キャッシュ・フローの状況の分析

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの状況につきましては、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

### 経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

### 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当連結会計年度における資本の財源及び資金の流動性につきましては、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

短期運転資金需要のうち主なものは、製造費、販売費及び一般管理費等の営業費用であります。投資を目的とした長期資金需要は、主に設備投資によるものであります。

短期運転資金は自己資金及び金融機関からの短期借入を基本としており、設備投資につきましては、金融機関からの長期借入を基本としております。

#### 4【経営上の重要な契約等】

2021年4月30日付で、当社は、設備資金に充当するため、株式会社山口銀行、株式会社三菱UFJ銀行他4金融機関とシンジケートローン契約を締結しております。

本契約の概要は次のとおりであります。

(1) 契約金額	3,000百万円
(2) 契約形態	タームローン
(3) 契約締結日	2021年4月30日
(4) 実行日	2021年5月10日
(5) 借入期間	10年
(6) 金利	基準金利 + スプレッド
(7) アレンジャー	株式会社山口銀行、株式会社三菱UFJ銀行
(8) エージェント	株式会社三菱UFJ銀行

なお、本契約には財務制限条項が付されており、その詳細は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (連結貸借対照表関係)」に記載のとおりであります。

#### 5【研究開発活動】

当社グループは創業以来、研究開発活動を重視し、格段の努力を傾注してまいりました。

研究開発は研究開発部によって推進され、当該業務には全従業員の約5%にあたる18名が携っており、主要製品である酸化チタン及び酸化鉄の開発・製造・販売を通して培った技術と情報の蓄積を活かし、既存事業にとらわれることなく幅広いテーマに取り組んでおります。

当連結会計年度における活動内容につきましては、経営方針に基づいて、事業構造の変革と長期的な発展に結びつく新製品の開発に取り組むとともに、既存製品の改良や応用の研究に積極的に取り組んでおります。

具体的には、新製品といたしまして、超微粒子酸化チタン、導電性無機酸化物、封止材及びトナー用無機複合酸化物、化粧品用粉体並びに分散体等の研究開発に取り組み、着実な成果を上げております。

なお、当連結会計年度中における研究開発費の総額は295百万円であります。

また、研究開発活動につきましては、セグメントごとの把握が実務上困難なため、セグメントごとに記載しておりません。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループは、製造工程の生産性の維持向上、既存製品の品質向上、今後成長の見込まれる分野及び研究開発分野に重点を置き設備投資を行っております。

当連結会計年度は、主に既存設備の維持更新工事を行い、設備投資額（有形固定資産本勘定受入高ベースの数値）の内訳は次のとおりであります。

	当連結会計年度	対前期比増減
酸化チタン関連事業	233百万円	93.0%
酸化鉄関連事業	29 "	58.2 "
その他	23 "	83.2 "
合計	286 "	92.0 "

なお、当連結会計年度は、生産能力に影響を及ぼすような固定資産の売却、撤去はありません。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は以下のとおりであります。

##### (1) 提出会社

2022年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容 又は業務の内容	帳簿価額(百万円)				従業員数 (人)	
			建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	その他		合計
本社・宇部工場 (山口県宇部市)	全社 酸化チタン関連事業 酸化鉄関連事業 その他	管理業務 生産設備	879	1,681	88 (44) [76]	82	2,731	181 (12)
研究開発部 特許部 (山口県宇部市)	全社 酸化チタン関連事業	研究開発設備 生産設備	78	242	-	52	374	44 (2)
宇部開発センター (山口県宇部市)	酸化チタン関連事業	生産設備	2,259	2,203	- [32]	3	4,466	61 (0)
宇部西工場 (山口県宇部市)	酸化チタン関連事業	生産設備	-	-	143 (12)	-	143	- (-)
東京事務所 (東京都中央区)	全社	販売業務	0	-	-	0	0	10 (-)
合計			3,218	4,127	231 (57) [108]	138	7,716	296 (15)

(注)1 帳簿価額の「その他」は工具、器具及び備品であります。

2 建設仮勘定は含んでおりません。

3 本社・宇部工場の土地には研究開発部、特許部、福利厚生施設を含んでおり、建物には福利厚生施設を含んでおります。

4 土地及び建物の一部を賃借しております。年間賃借料は71百万円であります。なお、賃借中の土地の面積については[ ]で外書しております。

5 宇部西工場の土地は、株式会社TBMへ貸与しております。

6 従業員数の( )は、臨時雇用者数の年間平均人数を外数で記載しております。

##### (2) 国内子会社

2022年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)				従業員数 (人)	
				建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他		合計
株式会社TBM	本社 (山口県宇部市)	酸化チタン 関連事業	生産設備	386	222	-	2	611	21 (4)
TKサービス 株式会社	本社 (山口県宇部市)	その他	物流業務等	-	0	-	-	0	18 (6)

(注)1 帳簿価額の「その他」は工具、器具及び備品であります。

2 建設仮勘定は含んでおりません。

3 従業員数の( )は、臨時雇用者数の年間平均人数を外数で記載しております。

### 3【設備の新設、除却等の計画】

- (1) 重要な設備の新設等  
該当事項はありません。
- (2) 重要な設備の除却等  
該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,400,000
計	8,400,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2022年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2022年6月29日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,027,626	3,027,626	東京証券取引所 市場第一部 (事業年度末現在) プライム市場 (提出日現在)	単元株式数は100株であります。
計	3,027,626	3,027,626	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2017年10月1日 (注)	27,248,640	3,027,626	-	3,443	-	292

(注) 株式併合(10:1)によるものであります。

#### (5)【所有者別状況】

2022年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							計	単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	13	24	52	24	2	3,428	3,543	-
所有株式数 (単元)	-	5,055	1,070	7,240	414	3	16,289	30,071	20,526
所有株式数 の割合(%)	-	16.81	3.56	24.07	1.38	0.01	54.17	100.00	-

(注)1 自己株式56,893株は「個人その他」に568単元、「単元未満株式の状況」に93株を含めて記載しております。なお、自己株式56,893株は、株主名簿記載上の株式数であり、事業年度末現在の実質的な所有株式数は56,793株であります。

2 上記「その他の法人」の中には、証券保管振替機構名義の株式が10単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2022年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する 所有株式数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2丁目11-3	256	8.62
稲畑産業株式会社	大阪府大阪市中央区南船場1丁目15-14	210	7.10
株式会社東芝	東京都港区芝浦1丁目1-1	200	6.73
株式会社山口銀行	山口県下関市竹崎町4丁目2-36	128	4.32
株式会社山田事務所	山口県下松市大字平田460	96	3.24
小西安株式会社	東京都中央区日本橋本町2丁目6-3	93	3.15
平井健治	山口県宇部市	80	2.69
株式会社日本カストディ銀行	東京都中央区晴海1丁目8-12	63	2.12
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1丁目13-1	38	1.30
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	東京都千代田区大手町1丁目9-2	32	1.08
計	-	1,198	40.35

(注)1 当社は、自己株式を56,793株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

2 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社	256千株
株式会社日本カストディ銀行	63千株

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2022年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 56,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,950,400	29,504	-
単元未満株式	普通株式 20,526	-	-
発行済株式総数	3,027,626	-	-
総株主の議決権	-	29,504	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権10個)含まれております。

【自己株式等】

2022年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
(自己保有株式) チタン工業株式会社	山口県宇部市大字 小串1978番地の25	56,700	-	56,700	1.87
計	-	56,700	-	56,700	1.87

(注)1 株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が100株(議決権1個)あります。なお、当該株式数は、上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に含まれております。

2 2021年7月21日開催の取締役会決議に基づき、譲渡制限付株式報酬として自己株式の処分を行いました。この処分により自己株式は3,800株減少しております。

3 2022年2月14日開催の取締役会決議に基づき、2022年2月15日から2022年3月31日にかけて自己株式を取得しております。この取得により自己株式は44,300株増加しております。

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
取締役会(2022年2月14日)での決議状況 (取得期間 2022年2月15日～2022年4月28日)	60,000	100
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	44,300	76
残存決議株式の総数及び価額の総額	15,700	23
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	26.17	23.35
当期間における取得自己株式	12,700	23
提出日現在の未行使割合(%)	5.00	0.10

(注)1 自己株式の取得方法は、東京証券取引所における市場買付であります。

2 当該決議における自己株式の取得は、2022年4月13日をもって終了しております。

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
当事業年度における取得自己株式	130	0
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、2022年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分)	3,800	6	-	-
保有自己株式数	56,793	-	69,493	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、2022年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り等による株式は含まれておりません。

## 3【配当政策】

当社は株主への利益還元を重要な課題のひとつと考えて事業の経営にあたっております。

この考えのもと、当社の配当につきましては、従来から安定配当を旨としておりますが、一方、将来の事業展開を見越した投資や財務体質強化のための内部留保の充実も企業にとり重要なことと認識しており、業績に照らしてこれらを総合的に判断し、配当を実施することとしております。

また、中間配当と期末配当の年2回の配当を基本的な方針としており、決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。なお、当社は、取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

現在進行中の第6次中期経営計画(2021～2023年度)及び東京証券取引所のプライム市場上場基準の適合に向けた計画書(2025年度計画)の期間中においては、安定配当の視点と配当性向20%を目安に配当額を決定し、第6次中期経営計画期間の3カ年は収益増に伴って段階的に増配していく方針です。また、自己株式の取得についても、今後、適度な範囲で機動的に実行できるよう検討いたします。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
2022年6月29日 定時株主総会決議	53	18

#### 4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

##### (1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、「顧客本位、効率経営、社会貢献」の企業理念のもと、株主、顧客、従業員及び地域社会をはじめとする様々なステークホルダーからの信頼を高めるとともに、透明かつ公正及び迅速かつ果断な意思決定を促進し、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現するため、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでおります。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社の取締役会は、2022年6月29日現在、監査等委員である取締役4名を含む計9名の取締役で構成されており、監査等委員である取締役のうち3名は社外取締役であります。当社は、毎月1回の定時取締役会のほか必要に応じて臨時取締役会を開催し、法令、定款及び株主総会の決議に基づき、当社の経営に関する最高の意思決定と取締役の業務執行の監督を行うこととしております。また、毎月1回の定時監査等委員会のほか必要に応じて臨時監査等委員会を開催し、取締役の職務の執行が法令、定款及び株主総会の決議に基づき行われているかの監査等を行うこととしております。なお、当社は、2009年6月から、経営の効率化、意思決定の迅速化並びに次期社長及び取締役候補者の育成等を目的として、執行役員制度を導入しております。また、当社は、2018年12月から、取締役の指名、報酬決定等に係る取締役会の任意の諮問機関として、代表取締役社長執行役員と独立社外取締役全員で構成される、指名委員会及び報酬委員会を設置しております。指名委員会及び報酬委員会は、委員3名以上で構成し、その過半数は独立社外取締役とすることとしております。

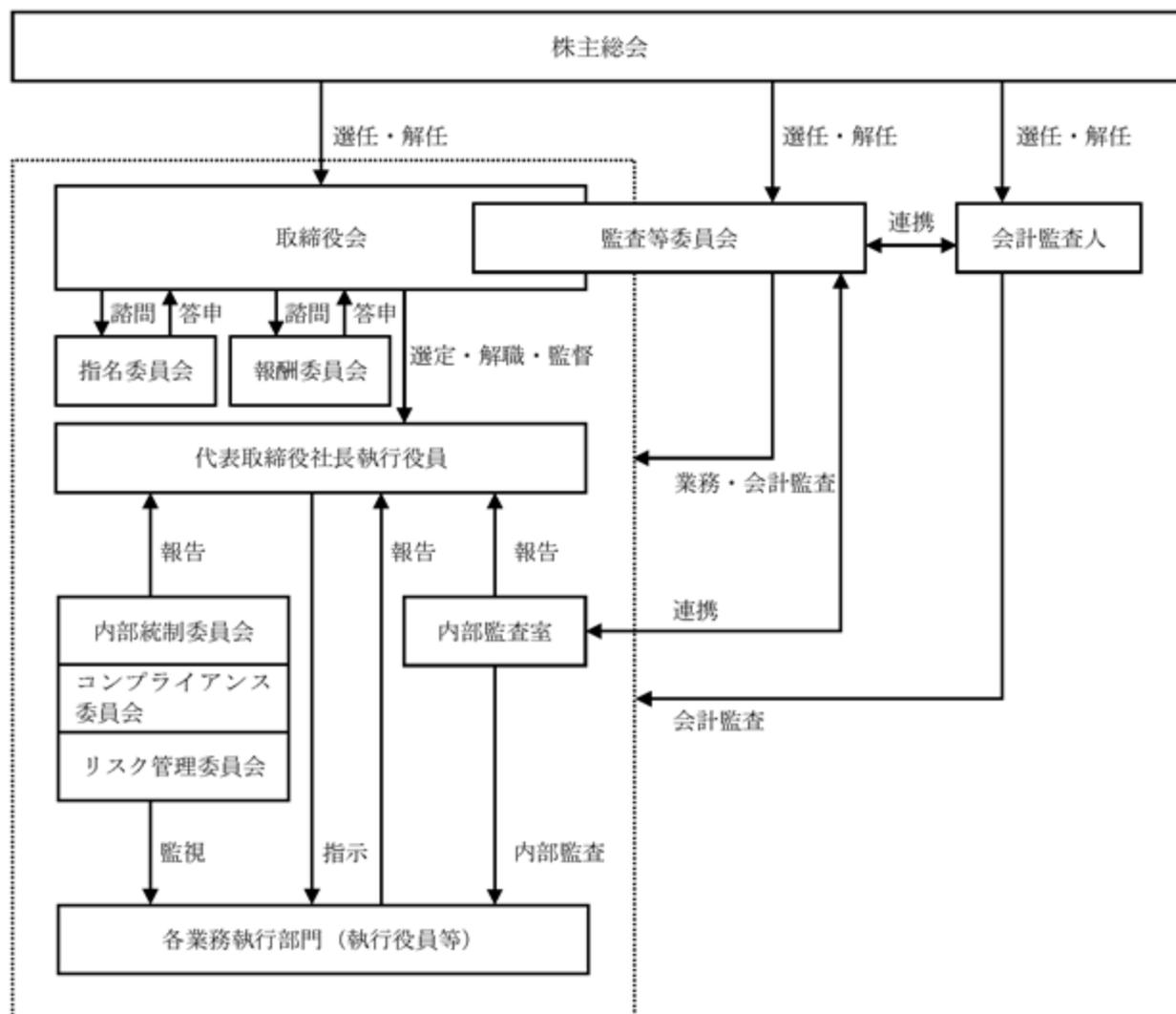
当社の事業規模を勘案しますと、経営の監視監督機能が適切に働く体制の確保を図るためには、当社の事業内容や内部事情に精通している社内取締役及び第三者的視点で経営の監視監督を行う社外取締役で構成される適切な規模の取締役会と、取締役会において議決権を有する監査等委員である取締役で構成される監査等委員会により、経営から独立した客観的な立場から経営の監視監督を行うガバナンス体制が、適切であると考えております。

なお、機関ごとの構成員は、次のとおりであります。

役職名	氏名	取締役会	監査等委員会	指名委員会	報酬委員会
代表取締役社長執行役員	井上保雄				
取締役専務執行役員	長岡佳孝	○			
取締役専務執行役員	長岡茂	○			
取締役常務執行役員	千々松義人	○			
取締役常務執行役員	西田敦	○			
取締役(常勤監査等委員)	大島覚	○			
社外取締役(監査等委員)	大田明登	○	○	○	○
社外取締役(監査等委員)	佐藤久典	○	○	○	○
社外取締役(監査等委員)	松野文子	○	○	○	○

(注) 表中の「」は議長又は委員長であることを表しており、「○」は構成員であることを表しております。

また、当社のコーポレート・ガバナンス体制の概要は、次のとおりであります。



#### 企業統治に関するその他の事項

##### ・内部統制システムの整備の状況

当社は会社法及び会社法施行規則に基づく業務の適正を確保するための体制の整備を目的として、取締役会決議により内部統制システム構築の基本方針を定め、当該方針に従って、以下のとおり内部統制システムを整備・運用しております。

##### 1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

取締役及び使用人のコンプライアンスの徹底を図るため、コンプライアンス規則及びコンプライアンス行動指針を制定し、全社を統括するコンプライアンス委員会において、コンプライアンスの遵守状況を管理する。また、内部監査室が定期的にコンプライアンスに関する内部監査を実施し、その結果を社長執行役員及び監査等委員会へ適宜報告する。さらに、法令上疑義のある行為等について使用人が直接情報提供を行う手段として内部通報窓口を設置する。

##### 2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る情報については、文書取扱規則に従い適切に文書で保存及び管理を行う。

##### 3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

リスク管理に関する体制を整備するため、リスク管理規則を制定し、全社を統括するリスク管理委員会において、リスク管理に関する施策を立案、推進する。また、不測の事態が発生した場合は、対策本部を設置し、迅速かつ適切な対応を行い、損害の拡大を防止する。

##### 4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

定例の取締役会を毎月1回開催し、重要事項の決定及び取締役の業務執行状況の監督等を行うとともに、必要に応じて臨時取締役会を開催し、迅速な意思決定を行う。また、取締役会において中期経営計画及び年度予算を策定し、各取締役の担当職務を明確にし、職務執行の効率化を図る。

- 5) 当社及びその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制  
関係会社管理規則を制定し、子会社の独立性・自主性を維持しつつ、事業活動等の定期的な報告に加え、重要案件については事前協議を行う。また、当社取締役又は使用人等を子会社の役員として派遣し、子会社の運営を監視・監督及び監査して業務の適正を確保するとともに、当社の監査等委員会及び内部監査室が連携して、子会社の業務執行状況を監査する。
  - 6) 監査等委員会の職務を補助すべき使用人に関する事項  
監査等委員会の職務を補助するため、監査等委員会事務局を設置し、内部監査室との兼務使用人1名以上を配置する。
  - 7) 6)の使用人の取締役（監査等委員である取締役を除く。）からの独立性及び当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項  
監査等委員会事務局の使用人は監査等委員会から直接指示命令を受け、監査等委員会に直接報告できる。また、監査等委員会事務局の使用人に関する人事異動については、監査等委員会の事前の同意を得る。
  - 8) 取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び使用人が監査等委員会に報告をするための体制その他の監査等委員会への報告に関する体制  
取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び使用人は監査等委員会に対して、以下の報告を行う。
    - ) 会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を発見した場合は、直ちにその事実
    - ) 取締役及び使用人が法令もしくは定款に違反する行為をし、又はこれらの行為をするおそれがあると考えられるときは、その旨
    - ) 監査等委員会が報告を求めた事項、その他監査上有用と判断される事項
  - 9) 監査等委員会へ報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制  
監査等委員会へ情報提供を行ったことを理由として、不利益な取扱いをすることを禁止するとともに、情報提供者の職場環境が悪化することがないように適切な措置を講じる。
  - 10) 監査等委員である取締役の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項  
監査等委員である取締役の職務の執行について生ずる費用等の請求の手続きを定め、監査等委員である取締役から前払又は償還等の請求があった場合には、当該請求に係る費用が監査等委員である取締役の職務の執行に必要なものと明らかに認められる場合を除き、所定の手続きに従い、これに応じる。
  - 11) その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制  
監査等委員会と代表取締役との間で定期的な意見交換会を開催する。また、監査等委員会からの要請に応じ、監査等委員会と会計監査人及び内部監査室との間で連絡会を開催する。
  - 12) 財務報告の信頼性を確保するための体制  
金融商品取引法その他の関係法令等に基づき、有効かつ適切な内部統制の整備及び運用体制を構築するとともに、当該体制が適正に機能していることを継続的に評価し、必要な是正措置を行う。
  - 13) 反社会的勢力排除に向けた体制  
市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは一切の関わりを持たず、不当な要求に対しては、警察等の外部専門機関と連携し、毅然とした姿勢で対応するとともに、反社会的勢力及び団体排除に向けて組織的に取り組む。
- ・ リスク管理体制の整備の状況  
当社におけるコンプライアンス及びリスク管理を徹底するため、以下のとおり各種委員会を設置しております。
- 1) 内部統制委員会  
内部統制委員会は社長執行役員を委員長とし、コンプライアンス委員会及びリスク管理委員会の諮問事項を最終決定するとともに、両委員会の活動内容等に関して必要な指示を命じております。
  - 2) コンプライアンス委員会  
コンプライアンス委員会は年間計画に基づき、当社のコンプライアンス行動指針の周知徹底などコンプライアンスの推進等に関する事項を審議しております。また、社内の法令違反行為又は不正行為の早期発見と早期是正を図るため、通報者の保護を徹底した内部通報窓口を設置しております。

### 3) リスク管理委員会

リスク管理委員会は年間計画に基づき、当社のリスクの洗い出し、評価・分析、リスクへの対応方法の決定等を行い、リスクの未然防止を図るとともに、万一緊急事態が発生した場合は、経営資源の保全と経営被害の最小化を図るために必要な事項を審議しております。

#### ・ 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、当社の取締役（監査等委員である取締役を含む。）、執行役員、重要な使用人を被保険者とする会社法第430条の3第1項に基づく役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しております。当該保険契約により、被保険者がその職務の執行に関し責任を負うこと又は当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずる損害を填補することとしております。ただし、保険契約上で定められた免責事由に該当する場合は、填補の対象としないこととしております。なお、当該保険契約の保険料は、全額当社が負担しております。

#### ・ 取締役の定数

当社は、取締役（監査等委員である取締役を除く。）を10名以内、監査等委員である取締役を5名以内とする旨を定款で定めております。

#### ・ 取締役の選任の決議要件

当社の取締役の選任決議は、監査等委員である取締役とそれ以外の取締役とを区別して、株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。また、取締役の選任決議については累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

#### ・ 剰余金の配当（中間配当）

当社は、機動的な配当政策を遂行することを目的として、会社法第454条第5項の定めに基づき、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として剰余金の配当（中間配当）を行うことができる旨を定款で定めております。

#### ・ 自己の株式の取得の決定機関

当社は、機動的な資本政策を遂行することを目的として、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

#### ・ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会の特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2)【役員の状況】

役員一覧

男性 8名 女性 1名 (役員のうち女性の比率11.1%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
代表取締役 社長執行役員	井上 保雄	1960年10月8日生	1984年4月 当社入社 2014年10月 当社執行役員宇部開発センター長 2017年6月 当社取締役常務執行役員生産本部長 兼 宇部開発センター長、宇部西工場長 2018年3月 当社取締役専務執行役員(技術管掌) 2019年6月 当社代表取締役社長執行役員(現任) 2019年6月 山東三盛 <sup>33</sup> 工業有限公司 副董事長(現任) 2019年7月 株式会社TBM 代表取締役社長(2022年6月退任)	(注)2	3,570
取締役 専務執行役員 (販売管掌) 兼 販売部長	長岡 佳孝	1961年4月13日生	1984年4月 当社入社 2014年10月 当社執行役員販売部長 2016年6月 当社取締役販売本部長 兼 販売部長 2017年6月 当社取締役常務執行役員販売本部長 兼 販売部長 2018年3月 当社取締役常務執行役員(販売管掌) 2019年6月 当社取締役専務執行役員(販売管掌) 兼 販売部長(現任)	(注)2	3,477
取締役 専務執行役員 (技術管掌)	長岡 茂	1961年5月21日生	1985年4月 当社入社 2015年10月 当社執行役員研究開発部長 2017年6月 当社取締役常務執行役員研究開発本部長 2018年3月 当社取締役常務執行役員(研究開発・生産管掌) 2019年6月 当社取締役専務執行役員(技術管掌)(現任) 2022年6月 株式会社TBM 代表取締役社長(現任)	(注)2	3,430
取締役 常務執行役員 (経営企画・経理財務管掌) 兼 経営企画部長	千々松 義人	1965年9月22日生	1988年4月 当社入社 2013年3月 当社総務部副部長 2016年6月 当社執行役員財務・経営企画部長 2019年6月 当社取締役常務執行役員(財務・経営企画管掌) 兼 財務・経営企画部長 2022年3月 当社取締役常務執行役員(経営企画・経理財務管掌)兼 経営企画部長(現任)	(注)2	2,415
取締役 常務執行役員 (総務・環境安全管掌) 兼 総務部長、内部監査室長	西田 敦	1968年4月8日生	1991年4月 当社入社 2015年3月 当社総務部副部長 2016年6月 当社内部監査室長 兼 総務部副部長 2017年3月 当社総務部長 兼 内部監査室長 2017年6月 当社執行役員総務部長 兼 内部監査室長 2019年6月 当社取締役常務執行役員(総務・環境安全管掌) 兼 総務部長、内部監査室長(現任) 2019年10月 株式会社TBM 取締役(現任)	(注)2	2,223
取締役 (常勤監査等委員)	大島 覚	1956年1月5日生	1981年4月 当社入社 2014年3月 当社品質保証部副部長 2018年3月 当社品質保証部長 2019年6月 当社取締役(常勤監査等委員)(現任) 2019年10月 株式会社TBM 監査役(現任)	(注)3	1,561
取締役 (監査等委員)	大田 明登	1957年7月15日生	1988年4月 弁護士登録(山口県弁護士会所属) 大田明登法律事務所開設 同代表(現任) 2004年6月 当社監査役 2017年6月 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注)3	6,015
取締役 (監査等委員)	佐藤 久典	1969年6月7日生	2010年12月 弁護士登録(山口県弁護士会所属) 佐藤久典法律事務所(現 宇部・山陽小野田総合法律事務所)開設 同代表(現任) 2018年5月 当社一時監査等委員である取締役の職務を行うべき者 2018年6月 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注)3	1,065
取締役 (監査等委員)	松野 文子	1962年4月25日生	1981年4月 広島国税局入局 2014年7月 下関税務署総務課課長 2015年7月 広島国税不服審判所国税審査官 2018年7月 広島国税局総務部税務相談官 2020年8月 税理士登録 松野和生税理士事務所 所属税理士(現任) 2021年6月 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注)3	339
計					24,095

(注)1 取締役大田明登氏、佐藤久典氏及び松野文子氏は、社外取締役であります。

2 取締役(監査等委員である取締役を除く。)の任期は、2022年3月期に係る定時株主総会終結の時から2023年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

3 監査等委員である取締役の任期は、2021年3月期に係る定時株主総会終結の時から2023年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

## 社外役員の状況

2022年6月29日現在の当社の社外取締役は3名であります。

社外取締役の大田明登氏は、大田明登法律事務所の弁護士であります。大田明登氏につきましては弁護士としての経験と専門知識を当社の監査に反映していただくため社外取締役に選任しております。なお、当社株式を保有しておりますが、僅少であり、それ以外に当社との人的関係、資本関係、取引関係、その他の利害関係はありません。社外取締役の佐藤久典氏は、宇部・山陽小野田総合法律事務所の弁護士であります。佐藤久典氏につきましては弁護士としての経験と専門知識を当社の監査に反映していただくため社外取締役に選任しております。なお、当社株式を保有しておりますが、僅少であり、それ以外に当社との人的関係、資本関係、取引関係、その他の利害関係はありません。

社外取締役の松野文子氏は、松野和生税理士事務所の所属税理士であり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。松野文子氏につきましては税務行政における豊富な経験と税理士としての専門知識を当社の監査に反映していただくため社外取締役に選任しております。なお、当社株式を保有しておりますが、僅少であり、それ以外に当社との人的関係、資本関係、取引関係、その他の利害関係はありません。

社外取締役の3名は監査等委員である取締役であります。

なお、当社は、社外取締役を選任するため、次の独立社外役員の独立性判断基準を定めております。

### ・独立社外役員の独立性判断基準

当社の社外取締役が独立性を有するという場合には、金融商品取引所が定める独立性基準に加え、当該社外取締役が次のいずれにも該当しないこととする。

- ) 当社を主要な取引先とする者又はその業務執行者（注））
- ) 当社の主要な取引先又はその業務執行者（注））
- ) 当社から役員報酬以外に、過去3年間に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家又は法律専門家（当該財産を得ている者が法人、組合等の団体である場合は、当該団体に所属する者をいう。）（注））
- ) 当社の主要株主又はその業務執行者（注））
- ) 最近10年間に於いて ) から ) のいずれかに該当していた者
- ) 次の a から c までのいずれかに掲げる者（重要でない者を除く。）の二親等内の親族
  - a. ) から ) までに掲げる者
  - b. 当社の子会社の業務執行者
  - c. 最近3年間に於いて、b 又は当社の業務執行者に該当していた者

### （注）

- ) 「当社を主要な取引先とする者」とは、直近事業年度を含めた過去3事業年度において、その者の連結売上高の5%以上の額の支払いを当社から受けた者をいう。
- ) 「当社の主要な取引先」とは、直近事業年度を含めた過去3事業年度において当社の売上高の5%以上の額の支払いを当社に行った者をいう。また、主要な取引先が金融機関である場合は、借入残高が直近事業年度末の総資産残高の5%以上となる者をいう。
- ) 「当社から役員報酬以外に、過去3年間に多額の金銭その他の財産を得ている」とは、役員報酬以外に直近事業年度を含めた過去3事業年度において平均で年間1千万円以上の金銭又は財産を当社から得ていることをいう。
- ) 「主要株主」とは、総議決権の10%以上を保有する株主をいう。

2022年6月29日現在、当社の社外取締役3名は、株式会社東京証券取引所の定める独立役員の独立性基準及び当社の定める独立社外役員の独立性判断基準に抵触しておらず、一般株主と利益相反が生じるおそれがないと判断し、独立役員として選任しております。

社外取締役による監督又は監査と内部監査、監査等委員会監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

2022年6月29日現在、当社の社外取締役3名は、監査等委員である取締役であります。監査等委員会は、内部監査室と連携して、取締役の職務の執行が法令、定款及び株主総会の決議に基づき行われているかの監査を実施しております。また、当社は、取締役の指名、報酬決定等に係る取締役会の任意の諮問機関として、代表取締役社長執行役員と独立社外取締役全員で構成される、指名委員会及び報酬委員会を設置しており、当社の社外取締役3名は、指名委員会及び報酬委員会の主要な構成員となっております。

内部監査においては、内部監査室が年度計画に基づき内部監査を行い、その結果を社長執行役員へ報告し、社長執行役員からの是正指示を各業務執行部門へ示達するとともに、是正措置の実施状況につきましてフォローアップ監査を実施する体制となっており、監査等委員会と必要に応じて相互の情報交換・意見交換を行うなど、連携を密にしております。

監査等委員会は、会計監査人及び内部監査室との間で定期的に連絡会を開催するなど、相互に連携を図っております。

なお、監査等委員会の事務局は内部監査室が担当しております。但し、専従者は置いておりません。

### (3)【監査の状況】

#### 監査等委員会監査の状況

当社の監査等委員会は、2022年6月29日現在、監査等委員である取締役の大島覚氏並びに監査等委員である社外取締役の大田明登氏、佐藤久典氏及び松野文子氏の4名で構成しており、内部監査室と連携して、取締役の職務の執行が法令、定款及び株主総会の決議に基づき行われているかの監査を実施しております。また、当社は、情報収集の充実を図り、内部監査室等との十分な連携を通じて監査の実効性を高め、監査・監督機能を強化するため、大島覚氏を、常勤の監査等委員である取締役に選定しております。常勤の監査等委員は、監査等の環境整備のほか社内での情報収集に努めるとともに、内部統制システムの構築・運用の状況を日常的に監視し検証することとしております。また、常勤の監査等委員は、その職務の遂行上知り得た情報について、適宜、他の監査等委員との情報共有に努めております。

監査等委員会は、定時取締役会に先立ち毎月開催する他、必要に応じて随時開催しております。当事業年度において当社は監査等委員会を13回開催し、1回あたりの所要時間は約40分でした。当事業年度の監査等委員会では、主に、監査方針、年間監査計画、監査等委員会の監査報告書、会計監査人の再任及び会計監査人の報酬に関する同意等の決議、監査等委員である取締役の個別の報酬に係る協議並びに毎月の監査状況の報告等を実施しております。

個々の監査等委員の出席状況については次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
大島 覚	13	13
大田 明登	13	12
佐藤 久典	13	12
松野 文子	10	10

(注) 松野文子氏は2021年6月29日就任以降、当事業年度開催の監査等委員会10回のうち10回に出席しております。

#### 内部監査の状況

当社における内部監査は、内部監査室が年度計画に基づき監査を行い、その結果を社長執行役員へ報告し、社長執行役員からの是正指示を各業務執行部門へ示達するとともに、是正措置の実施状況につきましてフォローアップ監査を実施する体制となっております。内部監査室は、業務執行部門から独立した社長執行役員直属の組織とし、2022年6月29日現在、3名（うち兼任3名）で構成しております。

内部監査室と、監査等委員会及び会計監査人とは、必要に応じて相互に情報交換・意見交換を行うなど、連携を密にしております。なお、監査等委員会の事務局は内部監査室が担当しております。但し専従者は置いておりません。

#### 会計監査の状況

##### a. 監査法人の名称

太陽有限責任監査法人

##### b. 継続監査期間

60年

(注)上記記載の期間は、調査が著しく困難であったため、当社が株式上場した時期を踏まえて調査した結果について記載したものであり、継続監査期間はこの期間を超える可能性があります。

##### c. 業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 大 兼 宏 章

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 坂 本 潤

##### d. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 2名 その他 8名

e. 監査法人の選定方針と理由

当社は、会計監査人である監査法人を選定するため、日本監査役協会が公表する「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」を踏まえ、会計監査人の選定及び評価の基準を定めております。また、会計監査人の解任又は不再任の決定の方針を定め、この方針のもとで、会計監査人の解任又は不再任を決定しております。

当社は、上記基準及び方針に基づき、監査能力、監査品質、監査計画、監査実績及び監査報酬並びに欠格事由の有無等を勘案した結果、太陽有限責任監査法人が当社の会計監査人として適切であると評価し、選定しております。

f. 監査等委員会による監査法人の評価

当社は、会計監査人である監査法人を評価するため、日本監査役協会が公表する「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」を踏まえ、会計監査人の選定及び評価の基準を定めております。

監査等委員会は、上記基準に基づき、太陽有限責任監査法人の監査能力、監査品質、監査計画、監査実績及び監査報酬並びに欠格事由の有無等を勘案した結果、太陽有限責任監査法人が当社の会計監査人として適切であると評価しております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	21	0	21	0
連結子会社	-	-	-	-
計	21	0	21	0

(監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容)

(前連結会計年度)

当社における非監査業務の内容は、再生可能エネルギー固定価格買取制度の減免申請に関する確認業務であります。

(当連結会計年度)

当社における非監査業務の内容は、再生可能エネルギー固定価格買取制度の減免申請に関する確認業務であります。

b. 監査公認会計士等と同一のネットワーク(Grant Thornton International Limited)に属する組織に対する報酬

(a.を除く)

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	-	-	-	-
連結子会社	-	-	-	-
計	-	-	-	-

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

該当事項はありませんが、監査日程等を勘案した上で決定しております。

e. 監査等委員会が会計監査人の報酬等に同意した理由

当社の監査等委員会は、当社の規模並びに太陽有限責任監査法人の監査能力、監査品質、監査計画及び監査実績等を勘案した結果、太陽有限責任監査法人の報酬等が適正な水準であると判断し、会計監査人の報酬等に同意いたしました。

#### (4)【役員報酬等】

役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社は、2021年2月12日開催の取締役会において、取締役（監査等委員である取締役を除く。）の個人別の報酬等の内容に係る決定方針を決議しております。また、取締役会は、当事業年度に係る取締役（監査等委員である取締役を除く。）の個人別の報酬等について、報酬等の内容の決定方法及び決定された報酬等の内容が取締役会で決議された方針と整合していることや、報酬委員会からの答申が尊重されていることを確認しており、当該決定方針に沿うものであると判断しております。

取締役（監査等委員である取締役を除く。）の個人別の報酬等の内容に係る決定方針の内容は次のとおりです。

##### a. 基本方針

当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬等は、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けた健全なインセンティブとして機能させるため、固定報酬としての月額報酬及び業績報酬並びに非金銭報酬としての株式報酬により構成することとしております。

##### b. 取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬に関する方針

###### 1) 固定報酬

固定報酬は月額報酬とし、役職に応じて、他社の報酬水準及び当社の業績等を総合的に勘案して決定することとしております。また、当社は、同じく固定報酬として、業績報酬を支給することとしております。業績報酬は、事業年度ごとの業績向上に対する意識を高めるため、前事業年度における業績指標の達成度等を、翌事業年度における固定報酬の金額に反映することとしております。

###### 2) 非金銭報酬等

非金銭報酬等は、当社の取締役（監査等委員である取締役及び社外取締役を除く。以下、「対象取締役」という。）に、役職に応じて、当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えるとともに、株主との価値共有を進めるため、株式報酬（譲渡制限付株式）としております。当該株式報酬は、譲渡制限付株式の付与のために各対象取締役に支給する金銭報酬債権の額を、取締役会決議の日の前営業日における東京証券取引所の当社普通株式の終値で除して算出した株式数について、毎年一定の時期に、各対象取締役に割り当てることとしております。

##### c. 取締役（監査等委員である取締役を除く。）の個人別の報酬等の内容についての決定に関する事項

取締役（監査等委員である取締役を除く。）の個人別の報酬等の内容は、報酬委員会の答申を踏まえ取締役会で決定することとしております。

当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）の金銭報酬限度額は、2017年6月29日開催の第119回定時株主総会において、年額156百万円以内（ただし、使用人兼務取締役の使用人給与は含まない。）と決議されております。当該株主総会終結時点の取締役（監査等委員である取締役を除く。）の員数は5名（うち社外取締役0名）です。また、当社は、2020年6月26日開催の第122回定時株主総会において、当社の対象取締役に、当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えるとともに、対象取締役と株主との一層の価値共有を進めることを目的として、年額156百万円以内（ただし、使用人兼務取締役の使用人分の給与は含まない。）の報酬枠とは別枠で、新たに譲渡制限付株式の付与のための報酬を支給することを決議し、譲渡制限付株式報酬制度を導入しております。本制度により、譲渡制限付株式の付与のため対象取締役に對して支給される金銭報酬債権の総額は、年額30百万円以内（ただし、使用人兼務取締役の使用人分の給与は含まない。）とし、各対象取締役への具体的な配分は取締役会で決定することとしております。なお、本制度により発行又は処分される当社の普通株式の総数は年20,000株以内としております。

当社の監査等委員である取締役の金銭報酬限度額は、2021年6月29日開催の第123回定時株主総会において、年額32百万円以内と決議されております。当該株主総会終結時点の監査等委員である取締役の員数は4名（うち社外取締役3名）です。

取締役の定数につきましては、当社は、取締役（監査等委員である取締役を除く。）を10名以内、監査等委員である取締役を5名以内とする旨を定款で定めております。

当社は、2018年12月から、取締役の報酬決定等に係る取締役会の機能の独立性、客観性及び説明責任を強化するため、取締役会の任意の諮問機関として報酬委員会を設置しております。報酬委員会は、代表取締役社長執行役員及び独立社外取締役全員で構成し、毎年4月に取締役会の諮問に応じて次の事項を決定し、取締役会に答申することとしております。

###### 1) 取締役の報酬等に関する株主総会議案の原案

###### 2) 取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬制度及び報酬の算定方法の原案

###### 3) その他、取締役の報酬等に関して取締役会が必要と認めた事項

なお、当連結会計年度は、2021年6月29日開催の臨時取締役会で、同日開催の第123回定時株主総会において選任された取締役（監査等委員である取締役を除く。）5名の2021年7月以降の個別報酬額を決定しております。また、2021年6月29日開催の臨時監査等委員会で、同日開催の第123回定時株主総会において選任された監査等委員である取締役4名の2021年7月以降の個別報酬額を、監査等委員である取締役の協議によって決定しております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	左記のうち、 非金銭報酬等	
取締役(監査等委員及び 社外取締役を除く。)	113	113	-	-	6	5
取締役(監査等委員) (社外取締役を除く。)	10	10	-	-	-	1
社外役員	11	11	-	-	-	3

使用人兼務役員の使用人分給とのうち重要なもの  
該当事項はありません。

(5)【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が専ら株式の価値の変動又は株式に係る配当によって利益を受けることである投資株式を、純投資目的である投資株式としております。また、保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式を政策保有株式としております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

- a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容
- 当社は、中長期的な観点で、当社の事業運営に資すると判断した場合、政策的に株式を保有することとしております。また、年1回、取締役会で、個別の政策保有株式につきまして、保有先企業との取引状況等を踏まえ、保有目的が適切か、保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているか等の観点から、保有の適否を検証しております。上記の検証の結果、保有することが適切でない判断された政策保有株式については、原則として売却することとしております。
- なお、当社は2022年6月15日開催の取締役会において、当社が保有する政策保有株式について、保有目的の適切性、当社の資本コスト(WACC)、保有銘柄の株主総利回り、保有先企業(グループ会社含む。)との取引状況、株価変動のリスク等を総合的に考慮し、保有の適否を検証した結果、中長期的な観点で当社の事業運営に資するため、株式を保有することが適切であると判断いたしました。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	5	20
非上場株式以外の株式	3	433

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	-	-	-

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(百万円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	1	5

c. 特定投資株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
稲畑産業株式会社	159,000	159,000	<p>(保有目的) 当社の主要な代理店であり、業界動向等の情報収集及び取引関係の維持・強化を目的としております。</p> <p>(定量的な保有効果) 定量的な保有効果は記載が困難であります、同社とは安定的な取引を継続しており、上記a. 記載の方法により検証した結果、中長期的な観点で当社の事業運営に資するため、保有することが適切であると判断しております。</p>	有
	328	263		
株式会社山口フィナンシャルグループ	123,332	123,332	<p>(保有目的) 当社のメインバンクである株式会社山口銀行の親会社であり、長期安定的な金融取引関係の維持を目的としております。</p> <p>(定量的な保有効果) 定量的な保有効果は記載が困難であります、同社グループ会社の山口銀行とは安定的な取引を継続しており、上記a. 記載の方法により検証した結果、中長期的な観点で当社の事業運営に資するため、保有することが適切であると判断しております。</p>	無(注)
	83	90		
株式会社三菱UFJ フィナンシャル・グループ	27,850	27,850	<p>(保有目的) 当社の株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社の親会社であり、株式事務等に関する情報収集及び取引関係の維持・強化並びに長期保有を目的とした安定株主としての関係維持を目的としております。</p> <p>(定量的な保有効果) 定量的な保有効果は記載が困難であります、当社は同社グループ会社の三菱UFJ信託銀行株式会社に証券代行業務の委託を継続しており、上記a. 記載の方法により検証した結果、中長期的な観点で当社の事業運営に資するため、保有することが適切であると判断しております。</p>	無(注)
	21	16		

(注) 保有先企業は当社の株式を保有していませんが、同社グループ会社が当社の株式を保有しております。

保有目的が純投資目的である投資株式  
該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したものの  
該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したものの  
該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成していません。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（2021年4月1日から2022年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（2021年4月1日から2022年3月31日まで）の財務諸表について、太陽有限責任監査法人による監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。また、監査法人との連携や各種セミナー等への積極的な参加を行っております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	586	561
受取手形及び売掛金	1,081	1,152
電子記録債権	634	798
商品及び製品	2,167	2,631
仕掛品	701	873
原材料及び貯蔵品	493	577
その他	241	23
流動資産合計	5,907	6,996
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,781	3,604
機械装置及び運搬具（純額）	4,686	4,349
土地	231	231
建設仮勘定	6	10
その他（純額）	191	141
有形固定資産合計	2,388,897	2,388,338
無形固定資産	15	18
投資その他の資産		
投資有価証券	4,721	4,826
繰延税金資産	21	50
その他	142	144
貸倒引当金	1	1
投資その他の資産合計	883	1,020
固定資産合計	9,797	9,376
資産合計	15,704	16,372

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	469	699
電子記録債務	150	285
短期借入金	3 2,650	3 2,350
1年内返済予定の長期借入金	3 452	3 506
未払法人税等	23	67
賞与引当金	161	162
その他	3,559	710
流動負債合計	7,467	4,783
固定負債		
長期借入金	3 1,171	3, 6 4,264
退職給付に係る負債	619	584
資産除去債務	3	3
固定負債合計	1,794	4,852
負債合計	9,262	9,635
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,443	3,443
資本剰余金	402	402
利益剰余金	2,053	2,287
自己株式	32	101
株主資本合計	5,866	6,031
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	213	251
為替換算調整勘定	52	99
退職給付に係る調整累計額	71	48
その他の包括利益累計額合計	194	303
非支配株主持分	381	402
純資産合計	6,442	6,737
負債純資産合計	15,704	16,372

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
売上高	6,284	1 8,149
売上原価	5,296	6,675
売上総利益	988	1,474
販売費及び一般管理費	2 1,052	2 1,101
営業利益又は営業損失( )	64	373
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	12	16
持分法による投資利益	12	3
雇用調整助成金	178	8
その他	44	11
営業外収益合計	248	40
営業外費用		
支払利息	38	46
シンジケートローン手数料	-	50
その他	296	29
営業外費用合計	334	126
経常利益又は経常損失( )	150	287
特別利益		
投資有価証券売却益	-	2
特別利益合計	-	2
特別損失		
固定資産除却損	3 7	3 6
特別損失合計	7	6
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失( )	157	283
法人税、住民税及び事業税	3	44
法人税等調整額	0	46
法人税等合計	3	2
当期純利益又は当期純損失( )	161	286
非支配株主に帰属する当期純利益	16	20
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に 帰属する当期純損失( )	178	265

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
当期純利益又は当期純損失( )	161	286
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	68	38
退職給付に係る調整額	29	22
持分法適用会社に対する持分相当額	30	46
その他の包括利益合計	128	108
包括利益	33	394
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	49	373
非支配株主に係る包括利益	16	20

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,443	402	2,323	40	6,128
当期変動額					
剰余金の配当			90		90
親会社株主に帰属する 当期純損失（ ）			178		178
自己株式の取得				0	0
自己株式の処分		1		8	7
自己株式処分差損の 振替		1	1		-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	269	8	261
当期末残高	3,443	402	2,053	32	5,866

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	144	22	100	66	364	6,559
当期変動額						
剰余金の配当						90
親会社株主に帰属する 当期純損失（ ）						178
自己株式の取得						0
自己株式の処分						7
自己株式処分差損の 振替						-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	68	30	29	128	16	145
当期変動額合計	68	30	29	128	16	116
当期末残高	213	52	71	194	381	6,442

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,443	402	2,053	32	5,866
当期変動額					
剰余金の配当			30		30
親会社株主に帰属する 当期純利益			265		265
自己株式の取得				76	76
自己株式の処分		0		7	6
自己株式処分差損の 振替		0	0		-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	234	69	165
当期末残高	3,443	402	2,287	101	6,031

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	213	52	71	194	381	6,442
当期変動額						
剰余金の配当						30
親会社株主に帰属する 当期純利益						265
自己株式の取得						76
自己株式の処分						6
自己株式処分差損の 振替						-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	38	46	22	108	20	129
当期変動額合計	38	46	22	108	20	294
当期末残高	251	99	48	303	402	6,737

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失( )	157	283
減価償却費	751	853
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	60	35
退職給付費用	23	23
賞与引当金の増減額( は減少)	10	0
受取利息及び受取配当金	13	16
支払利息	38	46
持分法による投資損益( は益)	12	3
投資有価証券売却損益( は益)	-	2
売上債権の増減額( は増加)	77	612
棚卸資産の増減額( は増加)	254	719
仕入債務の増減額( は減少)	151	567
その他	330	318
小計	79	702
利息及び配当金の受取額	13	35
利息の支払額	37	42
法人税等の支払額	45	8
営業活動によるキャッシュ・フロー	149	687
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	10	10
定期預金の払戻による収入	10	10
有形固定資産の取得による支出	731	3,452
投資有価証券の取得による支出	0	0
投資有価証券の売却による収入	-	5
貸付金の回収による収入	-	1
その他	38	6
投資活動によるキャッシュ・フロー	770	3,453
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	1,250	-
短期借入金の返済による支出	-	300
長期借入れによる収入	-	3,600
長期借入金の返済による支出	559	452
自己株式の取得による支出	0	76
配当金の支払額	90	30
その他	1	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	597	2,740
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	322	25
現金及び現金同等物の期首残高	898	576
現金及び現金同等物の期末残高	576	551

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 2社

連結子会社の名称

株式会社TBM

TKサービス株式会社

2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用の関連会社数 1社

関連会社の名称

山東三盛<sup>23</sup>工業有限公司

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

棚卸資産

通常の販売目的で保有する棚卸資産

移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3～47年

機械装置 4～12年

無形固定資産

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) 重要な外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(4) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の臨時給与の支給に備えるため、当期に負担すべき支給見込額を計上しております。

(5) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日連結会計年度から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理方法

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

(6) 重要な収益及び費用の計上基準

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日）を適用しております。当社及び連結子会社は、主に酸化チタン及び酸化鉄関連製品の製造及び販売を行っており、約束した財又はサービスの支配を顧客に引き渡した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取る見込まれる金額で収益を認識しております。なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する短期投資を計上しております。

（重要な会計上の見積り）

1. 棚卸資産の評価

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

（単位：百万円）

	前連結会計年度	当連結会計年度
棚卸資産	3,362	4,082

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社グループは、棚卸資産の評価については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しており、期末における正味売却価額が取得原価よりも下回っている場合には、当該正味売却価額をもって連結貸借対照表価額としております。当社グループが取り扱う棚卸資産は、長期にわたって品質面での影響を受けないことから、長期間の保管が可能となり、直近での正味売却価額を把握することが困難な場合があります。このように、期末における正味売却価額の見積りには困難が伴う場合があり、経営者による判断が翌連結会計年度の連結財務諸表に重要な影響を与える可能性があります。

2. 繰延税金資産の回収可能性

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

（単位：百万円）

	前連結会計年度	当連結会計年度
繰延税金資産	21	50

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社グループは、繰延税金資産の回収可能性については、企業の分類の妥当性、将来の一時差異等加減算前課税所得の十分性、税務上の繰越欠損金の控除見込年度及び控除見込額のスケジューリング等に依存し、これらは経営者の重要な見積りの要素を伴います。このうち、収益力に基づく将来の課税所得は、主に会社の利益計画を基礎として見積られますが、当該利益計画に含まれる将来の売上高の予測や、新型コロナウイルス感染拡大による影響などには不確実性を伴い、これに関する経営者による判断が繰延税金資産の計上額に重要な影響を及ぼします。したがって、将来の課税所得の見積りの基礎となる利益計画は、経営者の主観的な判断に大きく影響を受けること及び新型コロナウイルス感染拡大による影響に伴い不確実性が高くなっていることから、翌連結会計年度の連結財務諸表に重要な影響を与える可能性があります。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の当期末高へ与える影響はありません。また、当連結会計年度の損益に与える影響もありません。

収益認識会計基準第89-3項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度に係る「収益認識関係」注記については記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる当連結会計年度に係る連結財務諸表に与える影響はありません。

また、「金融商品関係」注記において、金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項等の注記を行うことといたしました。ただし、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2019年7月4日)第7-4項に定める経過的な取扱いに従って、当該注記のうち前連結会計年度に係るものについては記載しておりません。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表)

前連結会計年度において、独立掲記していた「設備関係未払金」は金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「流動負債」の「その他」に含めております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」の「設備関係未払金」3,121百万円、「その他」437百万円は、「流動負債」の「その他」3,559百万円として組み替えております。

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、独立掲記していた「操業休止費用」は金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「営業外費用」の「その他」に含めております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」の「操業休止費用」262百万円、「その他」33百万円は、「営業外費用」の「その他」296百万円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

- 1 受取手形及び売掛金のうち、顧客との契約から生じた債権の金額は、それぞれ以下のとおりであります。

		当連結会計年度 (2022年3月31日)
受取手形	(百万円)	76
売掛金	(百万円)	1,453
計	(百万円)	1,529

- 2 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額 (百万円)	30,203	30,876

3 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

		前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
建物及び構築物	(百万円)	1,690 (1,433)	1,606 (1,360)
機械装置及び運搬具	(百万円)	2,491 (2,491)	2,288 (2,288)
土地	(百万円)	5 (5)	5 (5)
その他	(百万円)	7 (7)	6 (6)
計	(百万円)	4,195 (3,938)	3,907 (3,661)

上記のうち、( )内書きは工場財団根抵当を示しております。

担保付債務は、次のとおりであります。

		前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
短期借入金	(百万円)	2,050	1,850
1年内返済予定の長期借入金	(百万円)	274	340
長期借入金	(百万円)	1,171	1,830
計	(百万円)	3,495	4,021

4 関連会社に対するものは、次のとおりであります。

		前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
投資有価証券(株式)	(百万円)	321	372

5 受取手形割引高等

		前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
受取手形割引高	(百万円)	98	-
電子記録債権割引高	(百万円)	696	826

6 財務制限条項

当連結会計年度(2022年3月31日)

2021年4月30日付で、当社は、設備資金に充当するため、株式会社山口銀行、株式会社三菱UFJ銀行他4金融機関とシンジケートローン契約を締結しております。この契約に基づく借入実行残高は3,000百万円であります。

なお、本契約には以下のとおり財務制限条項が付されており、いずれかの条件に抵触した場合、当社は借入先からの通知により、期限の利益を喪失し、当該借入金を返済する義務を負っております。

各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期の末日又は2020年3月に終了する決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額のいずれか大きい方の75%の金額以上にそれぞれ維持する。

各年度の決算期に係る連結の損益計算書上の経常損益に関して、2期連続して経常損失を計上しない。

初回判定：2023年3月終了の決算期(初回判定対象：2022年3月終了の決算期及び2023年3月終了の決算期)

(連結損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)1.顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

		前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
運賃及び荷造費	(百万円)	141	177
役員報酬	(百万円)	136	142
給料及び賞与	(百万円)	150	139
賞与引当金繰入額	(百万円)	17	15
退職給付費用	(百万円)	6	7
研究開発費	(百万円)	308	295

3 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

		前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
機械装置及び運搬具	(百万円)	6	3
その他	(百万円)	1	2
計		7	6

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

		前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
その他有価証券評価差額金：			
当期発生額	(百万円)	98	58
組替調整額	(百万円)	-	2
税効果調整前	(百万円)	98	56
税効果額	(百万円)	30	17
その他有価証券評価差額金	(百万円)	68	38
退職給付に係る調整額：			
当期発生額	(百万円)	5	0
組替調整額	(百万円)	23	23
税効果調整前	(百万円)	29	23
税効果額	(百万円)	0	0
退職給付に係る調整額	(百万円)	29	22
持分法適用会社に対する持分相当額：			
当期発生額	(百万円)	30	46
組替調整額	(百万円)	-	-
持分法適用会社に対する持分相当額	(百万円)	30	46
その他の包括利益合計	(百万円)	128	108

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末株 式数(株)
発行済株式				
普通株式	3,027,626	-	-	3,027,626
合計	3,027,626	-	-	3,027,626
自己株式				
普通株式(注1,2)	20,147	316	4,300	16,163
合計	20,147	316	4,300	16,163

(注)1 普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2 普通株式の自己株式の株式数の減少は、譲渡制限付株式報酬としての自己株式処分によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2020年6月26日 定時株主総会	普通株式	90	30	2020年3月31日	2020年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2021年6月29日 定時株主総会	普通株式	30	利益剰余金	10	2021年3月31日	2021年6月30日

当連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末株 式数(株)
発行済株式				
普通株式	3,027,626	-	-	3,027,626
合計	3,027,626	-	-	3,027,626
自己株式				
普通株式(注1,2)	16,163	44,430	3,800	56,793
合計	16,163	44,430	3,800	56,793

(注) 1 普通株式の自己株式の株式数の増加は、2022年2月14日開催の取締役会決議に基づく自己株式の取得及び単元未満株式の買取りによるものであります。

2 普通株式の自己株式の株式数の減少は、譲渡制限付株式報酬としての自己株式処分によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年6月29日 定時株主総会	普通株式	30	10	2021年3月31日	2021年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	53	利益剰余金	18	2022年3月31日	2022年6月30日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
現金及び預金 (百万円)	586	561
預入期間が3ヶ月を超える定期預金 (百万円)	10	10
現金及び現金同等物 (百万円)	576	551

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金を主に銀行借入により調達しております。一時的な余資は預金等で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。投機的な取引は行わない方針であります。なお、デリバティブは実需の範囲で行うこととしております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金、電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。これらは、与信管理を推進することでリスク低減を図っております。また、投資有価証券は主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金、電子記録債務は、そのほとんどが6ヶ月以内の支払期日であります。借入金、運転資金(主として短期)及び設備資金(長期)に係る資金調達を目的としたものであり、償還日は最長でも決算日後10年未満であります。金利については、変動リスクに晒されていますが、短期間で市場金利を反映させる方法によっております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、営業債権及び貸付金について、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、信用度の高い国内銀行とのみ取引を行っております。

当連結会計年度の決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の連結貸借対照表価額により表されています。

市場リスク(金利等の変動リスク)の管理

当社グループは、有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、また、満期保有目的の債券以外のものについては、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは、各部署からの報告に基づき経営企画部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については次のとおりであります。

前連結会計年度(2021年3月31日)

(単位:百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
投資有価証券(*2)	379	379	-
資産計	379	379	-
長期借入金(*3)	1,623	1,621	2
負債計	1,623	1,621	2

(\*1)「現金及び預金」、「受取手形及び売掛金」、「電子記録債権」、「支払手形及び買掛金」、「電子記録債務」、「短期借入金」は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、記載を省略しております。

(\*2)以下の金融商品は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

区分	前連結会計年度
非上場株式	20
関係会社株式	321

(\*3)1年内返済予定の長期借入金(連結貸借対照表計上額452百万円)は、「長期借入金」に含めて表示しております。

当連結会計年度（2022年3月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
投資有価証券（*2）	433	433	-
資産計	433	433	-
長期借入金（*3）	4,771	4,761	9
負債計	4,771	4,761	9

(\*1)「現金及び預金」、「受取手形及び売掛金」、「電子記録債権」、「支払手形及び買掛金」、「電子記録債務」、「短期借入金」は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、記載を省略しております。

(\*2)市場価格がない株式等は、「投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

区分	当連結会計年度
非上場株式	20
関係会社株式	372

(\*3)1年内返済予定の長期借入金（連結貸借対照表計上額506百万円）は、「長期借入金」に含めて表示しております。

(注)1 金銭債権の決算日後の償還予定額

前連結会計年度（2021年3月31日）

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	586	-	-	-
受取手形及び売掛金	1,081	-	-	-
電子記録債権	634	-	-	-
合計	2,303	-	-	-

当連結会計年度（2022年3月31日）

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	561	-	-	-
受取手形及び売掛金	1,529	-	-	-
電子記録債権	798	-	-	-
合計	2,889	-	-	-

2 短期借入金及び長期借入金の決算日後の返済予定額

前連結会計年度（2021年3月31日）

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	2,650	-	-	-	-	-
長期借入金	452	257	219	174	137	383
合計	3,102	257	219	174	137	383

当連結会計年度（2022年3月31日）

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	2,350	-	-	-	-	-
長期借入金	506	552	590	553	553	2,014
合計	2,856	552	590	553	553	2,014

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

当連結会計年度（2022年3月31日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
其他有価証券				
株式	433	-	-	433
資産計	433	-	-	433

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

当連結会計年度（2022年3月31日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）	-	4,761	-	4,761
負債計	-	4,761	-	4,761

（注）時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）

これらの時価のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映しているため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものは、元利金の合計額を、同様の新規取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2021年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	379	73	306
	債券	-	-	-
	その他	-	-	-
	小計	379	73	306
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		379	73	306

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額20百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(2022年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	433	70	362
	債券	-	-	-
	その他	-	-	-
	小計	433	70	362
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		433	70	362

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額20百万円)については、市場価格がない株式のため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	5	2	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	5	2	-

(退職給付関係)

1.採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を併用しております。

2.確定給付制度

(1)退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

		前連結会計年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日)
退職給付債務の期首残高	(百万円)	1,068	1,021
勤務費用	(百万円)	54	63
利息費用	(百万円)	2	2
数理計算上の差異の発生額	(百万円)	11	3
退職給付の支払額	(百万円)	92	76
退職給付債務の期末残高	(百万円)	1,021	1,007

(2)年金資産の期首残高と期末残高の調整表

		前連結会計年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日)
年金資産の期首残高	(百万円)	382	401
期待運用収益	(百万円)	7	8
数理計算上の差異の発生額	(百万円)	5	3
事業主からの拠出額	(百万円)	43	44
退職給付の支払額	(百万円)	26	27
年金資産の期末残高	(百万円)	401	422

(3)退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

		前連結会計年度 (2021年 3月31日)	当連結会計年度 (2022年 3月31日)
退職給付債務	(百万円)	1,021	1,007
年金資産	(百万円)	401	422
未積立退職給付債務	(百万円)	619	584
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	(百万円)	619	584
退職給付に係る負債	(百万円)	619	584
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	(百万円)	619	584

(4)退職給付費用及びその内訳項目の金額

		前連結会計年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日)
勤務費用	(百万円)	54	63
利息費用	(百万円)	2	2
期待運用収益	(百万円)	7	8
数理計算上の差異の費用処理額	(百万円)	23	23
確定給付制度に係る退職給付費用	(百万円)	72	80

(5)退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

		前連結会計年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日)
数理計算上の差異	(百万円)	29	23
合 計	(百万円)	29	23

(6)退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

		前連結会計年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日)
未認識数理計算上の差異	(百万円)	78	55
合 計	(百万円)	78	55

(7)年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

		前連結会計年度 (2021年 3月31日)	当連結会計年度 (2022年 3月31日)
株式	(%)	41.0	47.2
債券	(%)	7.1	5.3
短期資金等	(%)	51.9	47.5
合 計	(%)	100.0	100.0

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8)数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

		前連結会計年度 (2021年 3月31日)	当連結会計年度 (2022年 3月31日)
割引率	(%)	0.2	0.2
長期期待運用収益率	(%)	2.0	2.0
予想昇給率	(%)	1.5～4.0	1.5～4.1

( 税効果会計関係 )

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 ( 2021年 3月31日 )	当連結会計年度 ( 2022年 3月31日 )
繰延税金資産		
賞与引当金超過額 (百万円)	47	49
退職給付に係る負債 (百万円)	188	177
減価償却及び減損損失超過額 (百万円)	24	11
税務上の繰越欠損金 (注) (百万円)	132	132
その他 (百万円)	89	121
繰延税金資産小計 (百万円)	482	492
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額 (注) (百万円)	114	93
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額 (百万円)	253	237
評価性引当額小計 (百万円)	368	331
繰延税金資産合計 (百万円)	114	161
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金 (百万円)	93	110
繰延税金負債合計 (百万円)	93	110
繰延税金資産の純額 (百万円)	21	50

( 注 ) 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度 ( 2021年 3月31日 )

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)	合計 (百万円)
税務上の繰越欠損金 ( 1 )	-	-	9	-	14	108	132
評価性引当額	-	-	-	-	6	108	114
繰延税金資産	-	-	9	-	8	-	( 2 ) 18

( 1 ) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

( 2 ) 税務上の繰越欠損金に係る繰延税金資産は、将来収益力に基づく課税所得見込を考慮した結果、回収可能と判断いたしております。

当連結会計年度 ( 2022年 3月31日 )

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)	合計 (百万円)
税務上の繰越欠損金 ( 1 )	-	9	-	14	-	107	132
評価性引当額	-	-	-	-	-	93	93
繰延税金資産	-	9	-	14	-	13	( 2 ) 38

( 1 ) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

( 2 ) 税務上の繰越欠損金に係る繰延税金資産は、将来収益力に基づく課税所得見込を考慮した結果、回収可能と判断いたしております。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

		前連結会計年度 (2021年3月31日)	当連結会計年度 (2022年3月31日)
法定実効税率 (調整)	(%)	税金等調整前当期純 損失が計上されている	30.4
交際費等永久に損金に算入されない項目	(%)	ため、記載しておりま	0.1
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	(%)	せん。	0.3
住民税均等割	(%)		1.2
法人税額の特別控除額	(%)		3.1
税務上の繰越欠損金控除額	(%)		15.1
持分法投資損益	(%)		0.4
評価性引当額	(%)		13.1
その他	(%)		0.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率	(%)		0.8

(資産除去債務関係)

当社グループは、土地賃貸借契約に基づき、資産の撤去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、将来資産を撤去する予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができません。そのため、当該資産に見合う資産除去債務を計上しておりません。

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	酸化チタン関連事業	酸化鉄関連事業	計		
日本	4,659	2,094	6,753	63	6,817
アジア	444	329	774	-	774
北米、中南米	309	117	427	-	427
ヨーロッパ	49	79	129	-	129
その他	-	1	1	-	1
顧客との契約から 生じる収益	5,464	2,622	8,086	63	8,149
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	5,464	2,622	8,086	63	8,149

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、副産物等の販売を含んでおります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4. 会計方針に関する事項(6) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

3. 当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 契約残高

顧客との契約から生じた債権の残高は以下の通りであります。

(単位:百万円)

	当連結会計年度
顧客との契約から生じた債権(期首残高)	
受取手形及び売掛金	1,081
電子記録債権	634
顧客との契約から生じた債権(期末残高)	
受取手形及び売掛金	1,529
電子記録債権	798

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループにおいては、予想契約期間が1年を超える重要な取引はありません。また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、酸化チタン、酸化鉄を基本にして組織が構成されており、各製品単位で包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、「酸化チタン関連事業」及び「酸化鉄関連事業」の2つを報告セグメントとしております。

「酸化チタン関連事業」は、酸化チタン及び高付加価値品の超微粒子酸化チタン等の製造及び販売を行っております。「酸化鉄関連事業」は、酸化鉄等の製造及び販売を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務 諸表計上 額 (注3)
	酸化チタン 関連事業	酸化鉄 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	4,420	1,820	6,241	43	6,284	-	6,284
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	110	110	110	-
計	4,420	1,820	6,241	153	6,394	110	6,284
セグメント利益又は損失( ) (営業損失)	184	266	82	6	75	11	64
セグメント資産	10,918	2,009	12,928	54	12,982	2,722	15,704
その他の項目							
減価償却費(注4)	527	63	590	0	591	155	746
持分法適用会社への 投資額	321	-	321	-	321	-	321
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	3,316	69	3,386	-	3,386	151	3,537

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、副産物等の販売を含んでおります。

2 調整額の内容は、以下のとおりであります。

(1)セグメント利益又は損失( )の調整額11百万円は、セグメント間取引消去等によるものです。

(2)セグメント資産の調整額2,722百万円は、各報告セグメントに帰属しない全社共通の資産に係るものであります。

3 セグメント利益又は損失( )は、連結財務諸表の営業損失と調整を行っております。

4 減価償却費は、有形固定資産及び無形固定資産に係るものであり、長期前払費用等は含まれておりません。

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務 諸表計上 額 (注3)
	酸化チタン 関連事業	酸化鉄 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	5,464	2,622	8,086	63	8,149	-	8,149
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	119	119	119	-
計	5,464	2,622	8,086	183	8,269	119	8,149
セグメント利益又は損失( ) (営業利益)	408	76	332	30	362	10	373
セグメント資産	11,270	2,603	13,874	50	13,925	2,447	16,372
その他の項目							
減価償却費(注4)	645	66	712	0	712	135	847
持分法適用会社への 投資額	372	-	372	-	372	-	372
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	233	32	266	-	266	29	296

(注) 1「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、副産物等の販売を含んでおります。

2 調整額の内容は、以下のとおりであります。

(1)セグメント利益又は損失( )の調整額10百万円は、セグメント間取引消去等によるものです。

(2)セグメント資産の調整額2,447百万円は、各報告セグメントに帰属しない全社共通の資産に係るものであります。

3 セグメント利益又は損失( )は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

4 減価償却費は、有形固定資産及び無形固定資産に係るものであり、長期前払費用等は含まれておりません。

#### 【関連情報】

前連結会計年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

##### 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を記載しているため、記載を省略しております。

##### 2. 地域ごとの情報

###### (1) 売上高

（単位：百万円）

日本	アジア	北米、中南米	ヨーロッパ	その他	合計
5,382	594	216	91	1	6,284

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

###### (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

##### 3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：百万円）

顧客の氏名又は名称	売上高	関連するセグメント名
稲畑産業株式会社	1,954	酸化チタン関連事業、酸化鉄関連事業
株式会社東芝	1,111	酸化チタン関連事業
森下産業株式会社	990	酸化チタン関連事業、酸化鉄関連事業

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

##### 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を記載しているため、記載を省略しております。

##### 2. 地域ごとの情報

###### (1) 売上高

（単位：百万円）

日本	アジア	北米、中南米	ヨーロッパ	その他	合計
6,817	774	427	129	1	8,149

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の氏名又は名称	売上高	関連するセグメント名
稲畑産業株式会社	2,419	酸化チタン関連事業、酸化鉄関連事業
森下産業株式会社	1,473	酸化チタン関連事業、酸化鉄関連事業
株式会社東芝	1,311	酸化チタン関連事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

関連当事者情報について記載すべき重要なものはありません。

当連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

関連当事者情報について記載すべき重要なものはありません。

(1 株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
1株当たり純資産額 (円)	2,012.64	2,132.33
1株当たり当期純損益(は損失) (円)	59.31	88.14

(注) 1 当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。なお、前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純損益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純損益(百万円) (は損失)	178	265
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純損益(は損失) (百万円)	178	265
普通株式の期中平均株式数 (株)	3,010,014	3,010,855

(重要な後発事象)

(自己株式の取得)

当社は、2022年2月14日開催の取締役会決議に基づき自己株式を取得しております。決算日後に取得した自己株式は、以下のとおりであります。

自己株式の取得状況

- |               |                         |
|---------------|-------------------------|
| (1) 取得した株式の種類 | 当社普通株式                  |
| (2) 取得した株式の総数 | 12,700株                 |
| (3) 取得価額の総額   | 23,244,400円             |
| (4) 取得した期間    | 2022年4月1日から2022年4月13日まで |
| (5) 取得方法      | 東京証券取引所における市場買付         |

(ご参考)

1. 2022年2月14日開催の取締役会における決議内容

- |               |  |
|---------------|--|
| (1) 取得する株式の種類 | 当社普通株式                                       |
| (2) 取得する株式の総数 | 60,000株(上限)<br>(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合1.99%) |
| (3) 取得価額の総額   | 100百万円(上限)                                   |
| (4) 取得する期間    | 2022年2月15日から2022年4月28日まで                     |
| (5) 取得方法      | 東京証券取引所における市場買付                              |

2. 上記取締役会決議に基づき取得した自己株式の累計(2022年4月13日現在)

- |               |             |
|---------------|-------------|
| (1) 取得した株式の総数 | 57,000株     |
| (2) 取得価額の総額   | 99,896,600円 |

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	2,650	2,350	0.7	-
1年以内に返済予定の長期借入金	452	506	0.7	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	-	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,171	4,264	0.5	2023年～2031年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
其他有利子負債	-	-	-	-
合計	4,273	7,121	-	-

(注)1 平均利率については、期末借入残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	552	590	553	553

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度の期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	1,885	3,757	5,791	8,149
税金等調整前四半期(当期)純利益 (百万円)	97	155	229	283
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (百万円)	60	118	190	265
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	20.07	39.31	63.12	88.14
(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (円)	20.07	19.24	23.80	25.03

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	492	505
受取手形	22	76
電子記録債権	634	798
売掛金	4 852	4 1,241
商品及び製品	2,091	2,485
仕掛品	674	827
原材料及び貯蔵品	452	469
前払費用	20	21
関係会社短期貸付金	60	230
その他	4 225	4 30
流動資産合計	5,526	6,687
固定資産		
有形固定資産		
建物	3,022	2,886
構築物	348	332
機械及び装置	4,407	4,110
車両運搬具	22	16
工具、器具及び備品	191	138
土地	231	231
建設仮勘定	6	10
有形固定資産合計	1 8,231	1 7,726
無形固定資産	15	18
投資その他の資産		
投資有価証券	399	453
関係会社株式	605	605
従業員に対する長期貸付金	22	21
長期前払費用	108	111
繰延税金資産	14	33
その他	11	12
貸倒引当金	1	1
投資その他の資産合計	1,159	1,234
固定資産合計	9,406	8,979
資産合計	14,933	15,666

(単位：百万円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	14	3
電子記録債務	150	285
買掛金	4,418	4,635
短期借入金	1,265	1,235
1年内返済予定の長期借入金	1,274	1,506
未払金	4,225	4,261
未払費用	98	248
未払法人税等	20	61
預り金	10	10
賞与引当金	156	157
その他	4,319	4,169
流動負債合計	7,213	4,691
固定負債		
長期借入金	1,171	1,342
退職給付引当金	541	529
資産除去債務	3	3
固定負債合計	1,716	4,797
負債合計	8,929	9,488
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,443	3,443
資本剰余金		
資本準備金	292	292
資本剰余金合計	292	292
利益剰余金		
利益準備金	75	78
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	2,011	2,214
利益剰余金合計	2,087	2,292
自己株式	32	101
株主資本合計	5,790	5,926
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	213	251
評価・換算差額等合計	213	251
純資産合計	6,003	6,178
負債純資産合計	14,933	15,666

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	当事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
売上高	1 5,695	1 7,611
売上原価	1 4,803	1 6,246
売上総利益	892	1,365
販売費及び一般管理費	1, 2 1,010	1, 2 1,043
営業利益又は営業損失( )	118	321
営業外収益		
受取利息及び配当金	1 32	1 17
受取賃貸料	1 11	1 11
雇用調整助成金	162	7
その他	44	11
営業外収益合計	250	48
営業外費用		
支払利息	32	43
シンジケートローン手数料	-	50
その他	275	30
営業外費用合計	308	124
経常利益又は経常損失( )	176	245
特別利益		
投資有価証券売却益	-	2
特別利益合計	-	2
特別損失		
固定資産除却損	3 7	3 6
特別損失合計	7	6
税引前当期純利益又は税引前当期純損失( )	184	241
法人税、住民税及び事業税	3	41
法人税等調整額	0	36
法人税等合計	3	5
当期純利益又は当期純損失( )	187	236

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本						評価・換算 差額等	純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式			株主資本 合計
		資本準備金	その他資本 剰余金	利益準備金	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金				
当期首残高	3,443	292	-	66	2,299	40	6,061	144	6,205
当期変動額									
剰余金の配当					90		90		90
利益準備金の積立				9	9		-		-
当期純損失（ ）					187		187		187
自己株式の取得						0	0		0
自己株式の処分			1			8	7		7
自己株式処分差損 の振替			1		1		-		-
株主資本以外の項 目の当期変動額 （純額）								68	68
当期変動額合計	-	-	-	9	288	8	271	68	202
当期末残高	3,443	292	-	75	2,011	32	5,790	213	6,003

当事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本						評価・換算 差額等	純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式			株主資本 合計
		資本準備金	その他資本 剰余金	利益準備金	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金				
当期首残高	3,443	292	-	75	2,011	32	5,790	213	6,003
当期変動額									
剰余金の配当					30		30		30
利益準備金の積立				3	3		-		-
当期純利益					236		236		236
自己株式の取得						76	76		76
自己株式の処分			0			7	6		6
自己株式処分差損 の振替			0		0		-		-
株主資本以外の項 目の当期変動額 （純額）								38	38
当期変動額合計	-	-	-	3	202	69	136	38	175
当期末残高	3,443	292	-	78	2,214	101	5,926	251	6,178

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

子会社株式及び関連会社株式  
移動平均法による原価法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有する棚卸資産

移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	3～47年
機械及び装置	4～12年

(2) 無形固定資産

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

3. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の臨時給与の支給に備えるため、当期に負担すべき支給見込額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日翌事業年度から費用処理しております。

5. 収益及び費用の計上基準

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日）を適用しております。当社は、主に酸化チタン及び酸化鉄関連製品の製造及び販売を行っており、約束した財又はサービスの支配を顧客に引き渡した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

## (重要な会計上の見積り)

## 1. 棚卸資産の評価

## (1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	前事業年度	当事業年度
棚卸資産	3,218	3,782

## (2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

連結財務諸表の「注記事項（重要な会計上の見積り）」に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

## 2. 繰延税金資産の回収可能性

## (1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	前事業年度	当事業年度
繰延税金資産	14	33

## (2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

連結財務諸表の「注記事項（重要な会計上の見積り）」に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

## (会計方針の変更)

## (収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、繰越利益剰余金の当期首残高へ与える影響はありません。また、当事業年度の損益に与える影響もありません。

## (時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる当事業年度に係る財務諸表に与える影響はありません。

## (表示方法の変更)

## (貸借対照表)

前事業年度において、独立掲記していた「設備関係未払金」は金額の重要性が乏しくなったため、当事業年度より「流動負債」の「その他」に含めております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動負債」の「設備関係未払金」3,121百万円、「その他」72百万円は、「流動負債」の「その他」3,194百万円として組み替えております。

## (損益計算書)

前事業年度において、独立掲記していた「操業休止費用」は金額の重要性が乏しくなったため、当事業年度より「営業外費用」の「その他」に含めております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外費用」の「操業休止費用」245百万円は、「営業外費用」の「その他」275百万円として組み替えております。

前事業年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「受取賃貸料」は、金額の重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた56百万円は、「受取賃貸料」11百万円、「その他」44百万円として組み替えております。

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

		前事業年度 (2021年3月31日)		当事業年度 (2022年3月31日)	
建物	(百万円)	1,561	(1,304)	1,481	(1,235)
構築物	(百万円)	128	(128)	125	(125)
機械及び装置	(百万円)	2,491	(2,491)	2,288	(2,288)
工具、器具及び備品	(百万円)	7	(7)	6	(6)
土地	(百万円)	5	(5)	5	(5)
計	(百万円)	4,195	(3,938)	3,907	(3,661)

上記のうち、( )内書きは工場財根根抵当を示しております。

担保付債務は、次のとおりであります。

		前事業年度 (2021年3月31日)		当事業年度 (2022年3月31日)	
短期借入金	(百万円)	2,050		1,850	
1年内返済予定の長期借入金	(百万円)	274		340	
長期借入金	(百万円)	1,171		1,830	
計	(百万円)	3,495		4,021	

2 受取手形割引高等

		前事業年度 (2021年3月31日)		当事業年度 (2022年3月31日)	
受取手形割引高	(百万円)	98		-	
電子記録債権割引高	(百万円)	696		826	

3 財務制限条項

当事業年度(2022年3月31日)

2021年4月30日付で、当社は、設備資金に充当するため、株式会社山口銀行、株式会社三菱UFJ銀行他4金融機関とシンジケートローン契約を締結しております。この契約に基づく借入実行残高は3,000百万円であります。

なお、本契約には以下のとおり財務制限条項が付されており、いずれかの条件に抵触した場合、当社は借入先からの通知により、期限の利益を喪失し、当該借入金を返済する義務を負っております。

各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期の末日又は2020年3月に終了する決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額のいずれか大きい方の75%の金額以上にそれぞれ維持する。

各年度の決算期に係る連結の損益計算書上の経常損益に関して、2期連続して経常損失を計上しない。

初回判定：2023年3月終了の決算期(初回判定対象：2022年3月終了の決算期及び2023年3月終了の決算期)

4 関係会社に対する金銭債権債務(区分表示したものを除く)

		前事業年度 (2021年3月31日)		当事業年度 (2022年3月31日)	
短期金銭債権	(百万円)	100		250	
短期金銭債務	(百万円)	11		12	

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

		前事業年度 (自2020年4月1日 至2021年3月31日)		当事業年度 (自2021年4月1日 至2022年3月31日)	
営業取引による取引高					
売上高	(百万円)	528		774	
仕入高	(百万円)	110		118	
営業取引以外の取引による取引高	(百万円)	30		13	

- 2 販売費に属する費用のおおよその割合は、前事業年度15%、当事業年度17%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は、前事業年度85%、当事業年度83%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。

		前事業年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日)	当事業年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日)
運賃及び荷造費	(百万円)	117	143
役員報酬	(百万円)	131	136
給料及び賞与	(百万円)	140	130
賞与引当金繰入額	(百万円)	16	15
減価償却費	(百万円)	11	14
研究開発費	(百万円)	308	295

- 3 固定資産除却損の内訳

		前事業年度 (自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日)	当事業年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日)
機械及び装置	(百万円)	6	3
その他	(百万円)	1	2
計	(百万円)	7	6

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

前事業年度(2021年3月31日)

時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

区分	前事業年度 (百万円)
関係会社株式	605

当事業年度(2022年3月31日)

市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

区分	当事業年度 (百万円)
関係会社株式	605

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

		前事業年度 (2021年 3月31日)	当事業年度 (2022年 3月31日)
繰延税金資産			
賞与引当金超過額	(百万円)	47	48
退職給付引当金超過額	(百万円)	164	161
減価償却及び減損損失超過額	(百万円)	13	6
税務上の繰越欠損金	(百万円)	101	100
その他	(百万円)	89	120
繰延税金資産小計	(百万円)	416	436
評価性引当額	(百万円)	308	293
繰延税金資産合計	(百万円)	107	143
繰延税金負債			
その他有価証券評価差額金	(百万円)	93	110
繰延税金負債合計	(百万円)	93	110
繰延税金資産の純額	(百万円)	14	33

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
法定実効税率 ( % )	税引前当期純損失が	30.4
(調整)	計上されているため、	
交際費等永久に損金に算入されない項目 ( % )	記載しておりません。	0.2
受取配当金等永久に益金に算入されない項目 ( % )		0.4
住民税均等割 ( % )		1.3
法人税額の特別控除額 ( % )		3.6
税務上の繰越欠損金控除額 ( % )		18.6
評価性引当額 ( % )		6.4
その他 ( % )		0.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率 ( % )		2.4

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項（収益認識関係）」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

(自己株式の取得)

連結財務諸表「注記事項（重要な後発事象）」に同一の内容を記載しておりますので、注記を省略しております。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	3,022	3	0	140	2,886	4,509
	構築物	348	3	-	19	332	517
	機械及び装置	4,407	260	3	553	4,110	22,435
	車両運搬具	22	-	0	6	16	69
	工具、器具及び備品	191	11	1	62	138	773
	土地	231	-	-	-	231	-
	リース資産	-	-	-	-	-	110
	建設仮勘定	6	283	279	-	10	-
	計	8,231	563	285	781	7,726	28,416
無形固定資産	その他	15	6	-	4	18	7
	計	15	6	-	4	18	7

(注)1 当期増加額の主な内訳は次のとおりであります。

機械及び装置 酸化チタン製造設備 224百万円  
建設仮勘定 酸化チタン製造設備 227百万円

2 当期減少額の主な内訳は次のとおりであります。

建設仮勘定 酸化チタン製造設備 227百万円

【引当金明細表】

(単位：百万円)

区分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	1	-	-	1
賞与引当金	156	157	156	157

(2)【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3)【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://www.titankogyo.co.jp">http://www.titankogyo.co.jp</a>
株主に対する特典	ありません。

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

- 1 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- 2 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- 3 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第123期（自 2020年4月1日 至 2021年3月31日） 2021年6月29日中国財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2021年6月29日中国財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

第124期第1四半期（自 2021年4月1日 至 2021年6月30日） 2021年8月11日中国財務局長に提出

第124期第2四半期（自 2021年7月1日 至 2021年9月30日） 2021年11月12日中国財務局長に提出

第124期第3四半期（自 2021年10月1日 至 2021年12月31日） 2022年2月14日中国財務局長に提出

(4) 臨時報告書

2021年6月30日中国財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

(5) 自己株券買付状況報告書

報告期間（自 2022年2月1日 至 2022年2月28日） 2022年3月15日中国財務局長に提出

報告期間（自 2022年3月1日 至 2022年3月31日） 2022年4月15日中国財務局長に提出

報告期間（自 2022年4月1日 至 2022年4月30日） 2022年5月16日中国財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2022年6月29日

チタン工業株式会社

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大 兼 宏 章

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 坂 本 潤

### <財務諸表監査>

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているチタン工業株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、チタン工業株式会社及び連結子会社の2022年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

棚卸資産の評価	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>会社の当連結会計年度の連結貸借対照表において、棚卸資産として「商品及び製品」2,631百万円、「仕掛品」873百万円及び「原材料及び貯蔵品」577百万円が計上されている。注記事項（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）4．会計方針に関する事項（1）重要な資産の評価基準及び評価方法 棚卸資産に記載されているとおり、棚卸資産の評価は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しており、期末における正味売却価額が取得原価を下回っている場合には、当該正味売却価額をもって連結貸借対照表価額としている。</p> <p>会社が取り扱う棚卸資産は主に金属素材のため、長年にわたって品質面での影響を受けないことから、長期間の保管が可能となり、直近での正味売却価額を把握することが困難な場合がある。</p> <p>このように、期末における正味売却価額の見積りには困難が伴う場合があり、経営者による判断が棚卸資産の連結貸借対照表価額に重要な影響を及ぼすため、監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。</p>	<p>当監査法人は、会社の棚卸資産の評価の妥当性を検討するために、同社が構築した関連する内部統制の整備及び運用状況の有効性を評価したうえで、同社の判断に対して、主に以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収益性の低下については、取得原価と期末における正味売却価額を比較するため、販売実績単価と在庫リストなどの関連資料と照合して、棚卸資産の収益性の低下による簿価切下げの要否を確かめた。</li> <li>・ 収益性の低下がある場合には棚卸資産の帳簿価額の切下額の妥当性を正味売却価額と在庫リストなどの関連資料と照合して確かめた。</li> <li>・ 長年にわたって入出荷の動きがないものについては、一定の基準に基づき収益性の低下の有無が適切に判断されていることを確かめるため、在庫年齢表に基づき販売担当責任者に対して会社が定めた棚卸資産の評価に関する基準に従って簿価切下額が計上されていることを質問したほか、過年度の正味売却価額などの関連資料と照合して在庫年齢表との整合性を確かめた。</li> </ul>

繰延税金資産の回収可能性	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>会社の当連結会計年度の連結貸借対照表において、繰延税金資産50百万円が計上されている。注記事項（税効果会計関係）に記載されているとおり、当該繰延税金資産の繰延税金負債との相殺前の金額は161百万円であり、将来減算一時差異等に係る繰延税金資産の総額492百万円から評価性引当額 331百万円が控除されている。</p> <p>繰延税金資産の回収可能性は、「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第26号）で示されている企業の分類の妥当性、将来の一時差異等加減算前課税所得の十分性、税務上の繰越欠損金の控除見込年度及び控除見込額のスケジューリング等に依存し、これらは経営者の重要な見積りの要素を伴う。このうち、収益力に基づく将来の課税所得は、主に会社の利益計画を基礎として見積られるが、当該利益計画に含まれる将来の売上高の予測や、新型コロナウイルス感染拡大による影響などには不確実性を伴い、これに関する経営者による判断が繰延税金資産の計上額に重要な影響を及ぼす。</p> <p>したがって、将来の課税所得の見積りの基礎となる利益計画は、経営者の主観的な判断に大きく影響を受けること及び新型コロナウイルス感染拡大による影響に伴い不確実性が高くなっていることから、当監査法人は当該事項を監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。</p>	<p>当監査法人は、会社の繰延税金資産の回収可能性を検討するために、同社が構築した関連する内部統制の整備及び運用状況の有効性を評価したうえで、同社の判断に対して、主に以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」に基づく企業の分類の妥当性、特に、近い将来に経営環境に著しい変化が見込まれないことを確かめた。</li> <li>・ 将来の課税所得の見積りの前提となった利益計画が適切な承認を得られていることを確かめ、利益計画と実績の比較をすることにより、過年度の利益計画の達成度合いに基づく将来の課税所得の見積りの不確実性の評価について検証した。</li> <li>・ 将来の売上高の予測を含む利益計画について、過去実績からの趨勢分析及び利用可能なデータとの比較を実施し、会社の見積りの合理性を評価し、利益計画の施策等の実行可能性を確かめた。また新型コロナウイルス感染拡大による影響、収束時期、収束後の市場動向について経営者に質問した。</li> </ul>

## その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止され

ている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないとは判断した場合は、当該事項を記載しない。

#### < 内部統制監査 >

##### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、チタン工業株式会社の2022年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、チタン工業株式会社が2022年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

##### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

##### 内部統制報告書に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査等委員会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

##### 内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

##### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)1 上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

2022年6月29日

チタン工業株式会社

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大 兼 宏 章

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 坂 本 潤

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているチタン工業株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの第124期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、チタン工業株式会社の2022年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

棚卸資産の評価
連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項(棚卸資産の評価)と同一内容であるため、記載を省略している。

繰延税金資産の回収可能性
連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項(繰延税金資産の回収可能性)と同一内容であるため、記載を省略している。

## その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注)1 上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。  
2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。